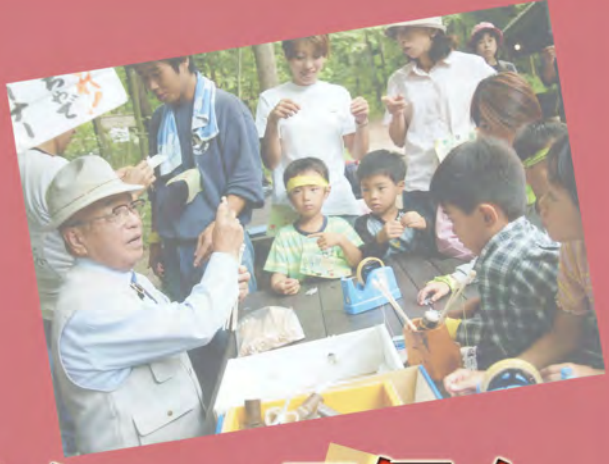
市民グループによる

ふるさと茨木探検ガイド

ふるさと茨木連帯



茨木の達人活人元気人

シルバーアドバイザー　林寿和（としかず）さん

～昔から伝わる楽しい玩具～

平野正善

いつの頃からか定かではないが、竹とんぼや水鉄砲など、昔から伝わる楽しき玩具（伝承玩具）がある。

また、その玩具を伝えながら、世代間の交流や地域の人たちの温かいふれあいを広げている元気な人がいる。

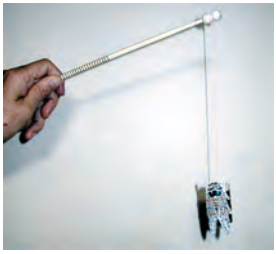
今のお年寄りが子供だった頃は、三世代同居家族が多いこともあって、祖父母や近所の高齢の人から、玩具の作り方や遊び方などを、直接、手を取って教わった懐かしい経験がある（地域の文化・習慣などは自然に伝承されていた）。

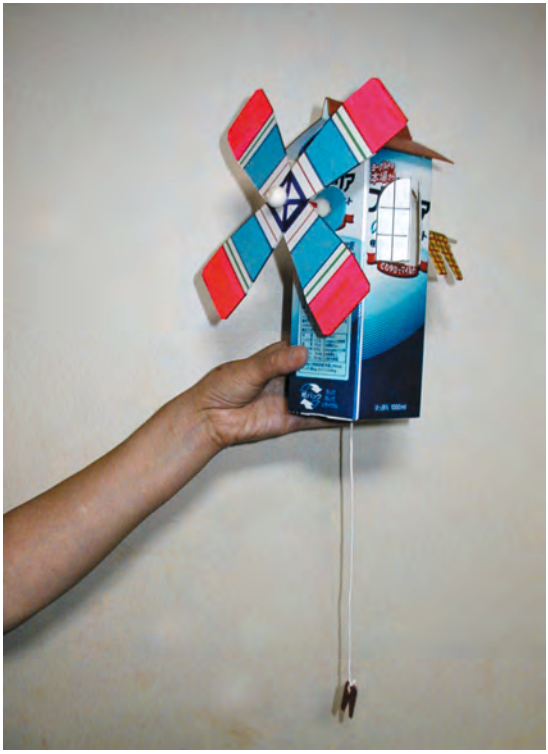
しかし、現代は、世代間の交流が少なくなり、地域社会の連携も薄れてきた。

子供らに伝承玩具のおもしろさを伝える林寿和さん

そこで、林寿和さんら、シルバーアドバイザー同期生の有志十数名が、11年前に「伝承玩具研究会」を結成。伝承玩具の研究改善と創作玩具の開発を計りながら、個人またはグループで、地域の高齢者教室、親子ふれあい教室、公民館まつり、小学校、子供会等々で、作り方や遊び方の指導を続けている。また、伝承玩具を教わった子供たちからは、「手作り玩具の温かさを知った」「自然からの贈り物だと思う」など嬉しい言葉をもらっている。

伝承玩具の種類は、約150種類に及び、その素材は、竹などの自然のものを利用していることが多く、最近では、牛乳パックやカップ酒のふたなどを利用したものも増えている（写真は一例）。





ストローとんぼ（上）
鳴きセミ（下）
風車小屋（右）

林さんが伝承玩具の活動を始めたきっかけは、70才で仕事一筋の人生に区切りをつけ（退職し）、今後の在り方（人生五計＊）を考えた時、地域とのかかわりが有意義な人生になるのではと気づいた。そして、大阪府立老人大学やシルバーアドバイザー養成講座に各１年間通学後、シルバーアドバイザー同期生の人達と活動を始めたものである。

＊人生五計
人生を有意義に送るには、人生の五計（生計、家計、身計、老計、死計）を樹て、実践することが大切という本を、林さんが読んで、その中から引用したのが、老計、死計。
老計とは、如何に上手に年をとるか、そしてどのように迎え送るかという計画。
死計とは、人間は誰でも時期が来れば死ぬといったなりゆきまかせではなく、死後に煩わしい問題を残さない等「良い死に方」の計画。

林さんの今後の目標は、マニュアルなしで作れる玩具の数を、現在の８５種類から、まずは１００種類に増やすことである。そして、伝承玩具や創作玩具を作ったり遊ぶだけに止まらず、地域の人たちの温かいふれあいの媒体として役立ち、青少年の健全育成にも寄与できるようにと願いつつ活動を続けている林さんは、今もなお若き82才の夢追人である。

連絡先：林寿和
茨木市北春日丘1-25 B106（TEL. 072-627-0710）

情緒障害児短期治療施設の藤大慶さん

シンナー、不登校、授業妨害、引きこもり、自殺未遂などの子どもたちが共同で生活する「大家族の家・小さな村」作りをしている人がいる。茨木市西福寺の住職・藤大慶さんである。

藤さんは、75年に深夜ラジオのＤＪを１年間担当した。その時若い世代の心の悩みをたくさん聞いた。西福寺の住職となり、81年には中高生を集めてよみがえりの場として、「るんびに太鼓」なる和太鼓の集団を結成、年に一度の合宿などを通じて若い世代のこころの傷が実は、生活の基本である衣食住に根ざしていると感じた。そして、経済的にいくら繁栄しても子どもが幸せでない社会は意味を持たないと考え、彼らに自然に沿って生活できる場を提供しようと決意した。これが、情緒障害児短期治療施設「るんびに苑」である。

2002年５月に社会福祉法人の認可を受け、理事長となり、９月末には京都府綾部市で学園の建設に着工した。学園の命名は釈迦が誕生したといわれるネパールのルンビニーという地名からとったという。るんびに苑にかける藤さんの生の声を聞いてみよう。

るんびに苑完成予想図

るんびに苑の視点

社会福祉法人るんびに苑　理事長：藤大慶

近年、急速に遺伝子の研究が進んで来ました。その結果、生命は遺伝子の中で生き続けているらしいことが分かってきました。とすると、父と母の遺伝子が一つになって私が生まれたのですから、私の中で父と母が生きていることになります。その父と母には、それぞれ祖父と祖母が生きていることになりますから、私の中に四人の祖父母も生きていることになります。こうしてたどってゆくと、原始の海に誕生して以来38億年を生き続けてきた膨大な生命が、一つになって私の中で生きて動いていることになります。

この膨大な生命の集合体を脳のほんの一部（自我中枢）が、「これは自分だ」と認識しているというのです。この自我意識は、とても大切な作用で

太鼓の修復をする藤大慶さん

す。しかし、これが行き過ぎると、自分本位、人間本位にしか意識出来なくなる。そして、自分の中に38億年の生命が生きて動いている事実を認識出来なくなると、様々な問題が生じて来るようであります。

初夏の頃、毛虫がびっしりと集まって木の葉を食べることがあります。この群れの中から一匹を取り出し別の葉に移すとどうなるかという実験を、テレビで放映していました。独りにされた毛虫は、何も食べず、やがて衰弱して死んでしまいます。

群れの毛虫をよく観察すると、皆ゆっくりと毛を動かしています。当然、隣同士、毛と毛が触れ合います。仲間を確かめ合っているようです。独りにされた毛虫は、しきりに毛を動かしていました。まさに必死の思いで仲間を探しているのでしょう。やがて衰弱して死んでしまいました。

この毛虫と同じことを、人間も常にやっています。例えば挨拶は、毛と毛で仲間を確かめ合う代わりに、言葉を使って同じことをやっているようです。だからその意味よりも響きに、とても敏感になります。勿論、言葉だけではなく、眼差し、顔の表情、態度等にも同じことが言えます。そして、仲間外れにされたり、自分の中に閉じこもってしまうと、身体中のバランスが崩れてしまいます。最近大人にも子どもにも大流行の、心身症です。

38億年の間、生命はいつも群れを作って生き抜いて来ました。その膨大な生命が凝縮した毛虫にも人間にも、いえ数千万種と言われる地球上の全ての生物にも、同じことが起こります。

また、この38億年間、生命は様々な危機に遭遇し、群れの大半が非業の死を遂げました。わずかな生命が生き残って次の群れを作り、その中のまたいくつかが次の生命を残し・・・、今地球上に生きている全ての生命が誕生したのです。この間、非業の死を遂げる生命は、自分たちの願いを生き残る生命に託したに違いありません。38億年の膨大な生命の願いが、親に凝縮し親を通して、今生きている全ての生命に届けられているのです。だから、草も木も、動物も人間も、真っ直ぐに伸びたい、幸せになりたい、

立派な子孫を残したいという願いに動かされているのだと思います。

ほんの一例をあげてみました。人間の都合で自然を造り変え、便利さ・快適さと引き替えに様々な環境汚染を引き起こし、沢山の動植物を絶滅させて、気が付くと人間も確実に住みづらくなっていました。オゾンホールや異常気象の頻発、酸性雨、砂漠化、温暖化等の問題だけではありません。生殖機能の異常やアレルギー性疾患、それに心身症の激増、家庭・地域の崩壊とそれに伴う青少年や高齢者の諸問題、差別の問題、さらには国際間の諸問題等々。どれを取っても、数千万種に分化した無数の生命（＝その集合体が地球）と同じ生命を頂いているという事実を、人間がすっかり忘れてしまった結果ではなかろうかと思うのであります。

青少年問題に関わるうちに、青少年問題だけでは済まされない、人間そのものが抱えている様々な問題に出会ってしまいました。

今、大切に思うのは、同じ生命を感じ取れる感性です。相手の苦しみや悲しみを感じ取れる感性です。一茶・源佐・千代女・金子みすゞ等のような感性です。蛙や牛・朝顔・鰯にも同じ生命を感じ取れる感性です。しかし戦後の復興の中では、役に立たないものとしてあまり評価もされなかったようです。それでも、そのような感性を持った人は、目立たないけれど、日本中に沢山いらっしゃるようです。

この感性が、今日の全ての問題を解決する鍵だと確信しています。勿論、一人では弱過ぎて何も出来ませんが、同じ生命を感じ合える者が《群れ》を作り支え合うならば、今日の様々な問題の大半が解消するように思えてなりません。そしてこの《群れ》は、多くの人の共感を呼ぶに違いありません。そしてこのような感性を持った多くの方が自信を取り戻して下さるならば、それは大きな力となって行くことでしょう。平成十五年にオープンする青少年のよみがえりの村『るんびに苑』で、これを実証して見たいと思っているところです。それが青少年の叫びに応える道であり、ご協力頂いた大勢の皆様の《真心》に応えることであろうと思うからです。

るんびに太鼓・藤慶哉さん

「るんびに太鼓」 主宰　藤慶哉

ルンビニ太鼓を打つ藤慶哉さん

るんびに太鼓は1986年、青少年のよみがえりの場として大阪府茨木市の浄土真宗本願寺派・西福寺に誕生しました。当時、青少年の非行が社会問題化し、シンナー中毒死や傷害事件が新聞やテレビで報道されない日はないくらいでした。私が入学した三島中学校は、市内でも最も荒れていた学校の一つでした。暴力に向けられている青少年の有り余るエネルギーを受け止めてくれるものはないかと模索していたところ、太鼓との出遇いがありました。

太鼓は一本の丸太を刳り抜き開口部に牛の皮を張っただけのシンプルな構造ですが、そこから打ち出される音は、心臓の鼓動に似ていると言われます。人間がこの世に生を受け最初に聞く音は、母親の胎内で聞く心臓の鼓動です。実際、打面の直径が１メートル近い大太鼓の打ち鳴らされているような所で赤ん坊がすやすやと眠ることができます。太鼓の音には人間の原初の記憶と生命力を呼び醒ます力があるようです。また、太鼓は遠くの人々あるいは遥か神々との交信手段として発達したため大音量を出せる構造で、しかもその行為に耐えうる強度を持っています。ですから、どれほど腕力に自信があって強く太鼓を叩いても皮が破れることはまずありま

せん。

今から思えば偶然の出会いによって誕生したこのグループは「るんびに太鼓」と名づけられました。「るんびに」とはインドの北部、現在のネパール領にあたるところで釈迦の生誕の地とされています。大自然の力に支えられ生かされている命の尊さと、人間が生きる真の道を説かれたのが釈迦でした。そのような釈迦の願いを信受する者として、青少年の問題を見過ごすことはできなかったのです。

しかし、発足当初は困難の連続でした。いわゆる不良少年の太鼓グループとして周囲の目は偏見に満ち、その一方でメンバー自身の引き起こすトラブルに振り回される毎日でした。それでもメンバー一人ひとりと真っ直ぐに向き合うことで徐々に信頼関係が芽生え、はじめは目もくれなかった太鼓にも次第に関心を持って取り組んでくれるようになります。手に豆を作り汗まみれになって太鼓に打ち込み、誰でも難なく音を出すことができる太鼓の隠れた奥深さに気付くとますますのめり込んでいきます。一打一打の音に工夫を重ね、演奏によって自己の内面を開放する喜びすら感じられるようになっていきました。そのような青少年のひたむきな姿にやがて周囲の誤解も解けていきました。

大人になるということは、自分にとって思うようになるとは限らない社会のありようを受け入れ、たとえ思い通りに行かなくても自分を見失うことのない、あるいは見失わないよう心掛ける人間になるということだと思います。「やればできる」などと無責任な精神論を唱えるつもりはありません。一生懸命努力しても常に報われるとは限らないからです。けれども一生懸命努力しなければ決して報われることはありません。まだ何者でもない青少年たちは、それゆえ何者にでもなることのできる可能性を秘めているのです。自分の夢や希望をかなえるため、時として必要な我慢や忍耐を青少年には身につけて欲しいと願っています。

少なくとも私はその様なことを中学・高校在学時に先生方から教示して

いただいた記憶がありません。結婚し、子供が生まれ育っていく。その過程で子供が人生の岐路に立たされ思い悩んでいる時に親としてどんな言葉を掛けてやることができるか。子供が自分の人生を懸けて投げかけた問いを親として同様に自分の人生を懸けて受け止め応えてやれなければ、子供は深く失望し親を軽蔑することになるでしょう。その結果、子供が次にどんな行動を取るかは予想できません。そこに至って親である私がどこの大学を卒業したとか、どこの企業に就職していくら収入があるということはあまり意味がないのです。

「るんびに太鼓」は発足して20年足らずですが、ここを巣立った青少年が結婚し、子供が生まれ育ち、中学生となり「るんびに太鼓」のメンバーとなった時、大きな転機が訪れると思っています。これまでの断絶した世代間の関係が、太鼓によって結びつくのです。「るんびに太鼓」の鼓動が、それを共有するコミュニティの異なる世代間の関係を活き活きとしたものにしてくれるに違いありません。

茨木発の映画人・伏見泰治さん

佐藤眞生

伏見泰治さん

茨木を背景に脚本を書き、茨木でキャストやスタッフを募って撮影を行い、編集も茨木、初上映も茨木でという自主製作映画人がいる。伏見泰治さんである。

彼はアメリカ生活を続ける中で映画製作と出会う。そして、帰国後地元茨木で、定職にはつかずに半自給の農作業やアルバイトをしながら自主製作映画に取り組む。なんばクリエイターファクトリーの第１期卒業生でもある。

2001年、長編作品「B STORY」を手がける。

撮影場所・エキストラなどで茨木未来倶楽部やふるさと茨木連帯の支援を受けながら、２年がかりで製作に取り組み、2003年春に完成を予定している。この映画、茨木のような郊外の家族を舞台に、ちょっと変わったラブストーリーが展開する。しかも穴のはなしだという。

茨木における初上映をご期待願いたい。

（上映に関しては未定だが、随時専用ＨＰに載せる予定をしている。http://www.herb.ne.jp/~fushimi/bs/ ）

「B STORY」

家族の葛藤を描きつつ、郊外の町を舞台に
２人のロマンスは意外な進展をみせる。
前半はヨウコを中心としたメロドラマ。
後半は良平を中心にしたバイオレンス。
「穴」をめぐる２人のラブストーリーはいったいどこまでつづくのか！
身近な人々を描いた愛の映画である。

小さな作品も含めると、かなりな数の作品をつくっているが、なかでも「反響」という短編は、第５回調布映画祭ショートフィルムコンペティションで入賞している。

彼に、“何で映画なのか”を聞いてみた。こんな答えが返ってきた。

先ず、自分は映画を愛している。表現したいものがあって、それを映画にしたい。自主製作映画は商業映画と違って、個人の生身の表現であり、それは仕事でも労働でもない。監督は自分の時間とお金を使って、全てを自分でやっていく。それは「タイタニック」とは明らかに違う。にもかかわらず、それは同じく“映画”でもある。言ってみれば、飛行機も自転車も同じ乗物であるというようなものである。勿論、飛行機は圧倒的に早い、でも自転車にだって手作りの味がある。この「ふるさと茨木探検ガイド」のようなものである。

映画作りの魅力はもうひとつある。それは多くの人々と深くコミュニケーションできることである。作り手、俳優、観客まで普段は会えないようないろんな人々と映画を通して出会うことができる。「B STORY」では、70歳のおばあちゃんから６歳の子供まで、実に多様な人々とふれあった。素晴らしい宝物である。

現場におけるさまざまなエネルギーには逃れられない魔力がある。それは阪神タイガースが毎日優勝！しているような熱気に満ちている。彼はそういうものにやみつきになってしまったようだ。

アメリカにおける経験から彼は自分の作りたいものがいかに日本と結びついているかを悟ったという。そして、それは大阪や茨木にもつながっていると感じたようだ。しかも、それらは決して、アメリカの友人の場合のようにハリウッドにはつながっていない。

彼は、自分のこだわりを大切にして、自由な表現と出会いの地平で、映画作りを続けたいと思っている。

超自主製作映画人・安田真奈（やすだ まな）さん

佐藤眞生

撮影中の安田真奈さん（向かって右）

自主製作映画というのをご存知だろうか？映画が大好きで、8ミリだの16ミリだのに精通していて、自分が伝えたいテーマを自由気ままに映画に表現する。商業映画と違って何の拘束もないかわりに、映画の内容も撮影技術や役者の演技もレベルはこなれていないし、劇場上映の機会は殆どなく身内だけで極くマニアックに楽しむという私的な映画の世界である。

安田真奈さんは、このいわゆる自主製作映画の世界の枠を越えつつある。賞もたくさんとり、劇場公開もされ、テレビ製作でマスコミにも登場している。主な作品と、その社会的評価をご紹介しておこう。

＊「わっつ・ごーいん・おん？」
・・・94年あきる野映画祭グランプリ・観客審査員賞
＊「ぼちぼちの俺ら」・・・95年あきる野映画祭監督賞
＊「ヒトチガイ」・・・96年キリンコンテンポラリーアワード奨励賞、ひろしま映像展演技賞
＊「おっさん・らぷそてー」
・・・96年映像展グランプリ、あきる野映画祭脚本賞
＊「忘れな草子」・・・97年あきる野映画祭グランプリ
＊「イタメシの純和風」・・・98年あきる野グランプリ、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭入選、2000年インディーズムービーフェスティバル入選

＊「オーライ」

・・・関西テレビ製作／2000年宝塚映画祭すみれ座賞／2000年TAMA NEW WAVE特別賞／2001年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭観客アンケート１位ファンタランド大賞
関西テレビ製作、京都朝日シネマ・ＢＯＸ東中野で上映

＊「something interesting」・・・2002年 niftyゆめ郵便 ショートカットムービーコンテストグランプリ

＊「ひとしずくの魔法」・・・関西テレビ・吉本興業・和歌山マリーナシティ製作

安田真奈さんは、奈良県出身で茨木在住の1970年生まれ。2002年９月末で退職したけれども、それまではＯＬで、販促企画をしていた。ＯＬ監督などと呼ばれて結構マスコミにも登場した。

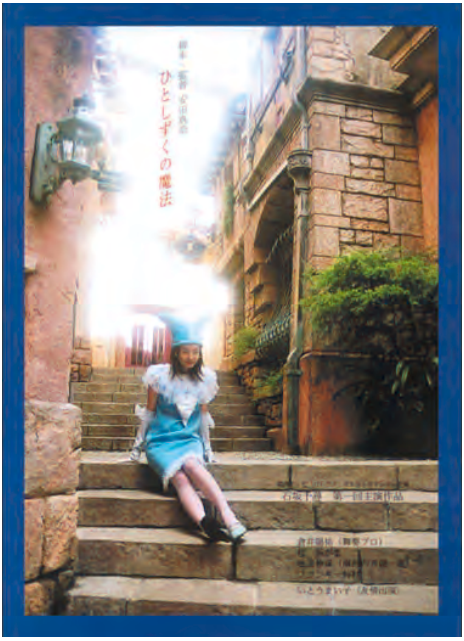
彼女は映画を撮る楽しみについて、こんな風に言っている。先ず、「脚本やアイデアの段階では100のものだったのが、スタッフや役者などみんなの力で150にも200にもふくらんでいく面白さ」がある。そして、もうひとつ、「映画は終わらないお祭り」である。映画はひとつ出来上がると、いろんな上映の場で新しい出会いがあり、何年もたってから再上映されたり、受賞があったり、そのたびにスタッフや役者と喜び合えるし、いつまでも楽しく

遊べる。

彼女は映画作りにかけてきた。一作20～30万円はかかるという映画を１年に１～２本のペースで撮っている。普通のＯＬが海外旅行やブランドの買い物に費やすお金を映画作りにまわし、結婚してからも彼の理解を得て映画を作り続けている。会社をやめてからは、テレビ東京（関西ではテレビ大阪）月～金　夜12:45からの「美少女日記」中の４分ミニドラマ「リトル・ホスピタル」全60回（2003年１～３月分）の脚本を担当したり、映画「Rei-ya」の脚本を担当（2003年１月東京BOX東中野公開）したりと、すこしずつ、プロとしても活動しようとしている。

彼女のテーマは、どこにでもいる普通の人々の普段の生活における心温まるドラマである。それをプロかアマかということにこだわらずに撮りたいと彼女は思っている。素人だからこの程度でいいという妥協はしない。

しかも、普通の自主製作映画人と違って、彼女は自作をどんどん、あちこちへ自分で売り込む。特に、観客の評価を機会あるごとに得ようと努めている。それが彼女の作品の質を進化させているように思う。



茨木でも、私の所属する「茨木未来倶楽部」の主催で、自主製作映画の上映会をこれまでに数回行っている。彼女の作品も取り上げた。

これからはそういう機会がもっと増えると思う。茨木から“世界のクロサワ”が生まれることを期待したい。

演芸評論家　相羽秋夫さんを訪ねて

～笑いで楽しく活気あるまちづくり～

平野正善

演芸評論家　相羽秋夫（本名：澤田健一郎、61才）さんは、放送作家および大学教授でもある。お笑いの台本をはじめ、演芸関係の著書（32冊）、新聞雑誌のコラム執筆（毎週）、テレビ・ラジオへの出演など、広く活躍され、1987年には、「上方お笑い大賞（秋田実賞）」も受賞されている。
また、茨木市文化振興財団理事として、茨木が楽しく活気ある街となるように、自ら、演芸のイベントの企画・演出・司会等をされ、「笑い」の楽しさや大切さを、多くの市民に伝えている。

"大学で、お笑いを教えている
ユニークさ"

相羽さんは、現在、大阪芸術大学にて、お笑いを教えているが、全国の大学で系統だった授業は、他に例を見ない。また、大学内に留まらず、市民の催しに打って出る。大学と社会、両方の分野で、お笑いを追求している。他には、このようなことをやる人がいない。

（相羽さんの言葉では、難しいからやらないのでなく、阿呆らしいからやる人がいないだけ、とのこと）

2002年6月6日、
茨木クリエイトセンターホールで開催された「漫才今昔史」のポスター

あいばあきおさん（下左）と
平和ラッパ・梅乃ハッパさん

"社会生活における、笑いの効力"

若い人達が、大学でお笑いを身につけ、どんな会社にいっても、ユーモアをもって職場で応用してもらえることを、相羽さんは望んでいる。たとえば、上司が部下を叱る時、頭ごなしでなく、次のように言えば、どんなものでしょうか。「君のやり方は、砂糖の手づかみだ」（つめが甘い"爪と詰め"）。また、部下からは、「ウサギのさか立ちです」（耳が痛い）。

ストレートだと言葉に剣があるが、笑いはオブラートのようなもの。ギスギスした社会が、スムーズにうまくいく。

"笑いの中で、見えてくる真実"

お笑いを、世間（公）では、低く見ている。笑うことを馬鹿にしている。笑いを不まじめと思っている。不まじめでなく、『笑いは、反まじめ』。つまり、違った角度からまじめを見ること。すると、真実が見えてくる。笑いの中では、相手も心を許してくれる。そして、真実を語ってくれる。

科学での例をあげると、ニュートンの万有引力も、反まじめにより、発見できたものである（リンゴが落ちる→押していないのに移動する→見方を変えると、何か引く力があることに気づく）。

反まじめが広がれば、お笑いは、高く見られる。相羽さんは、『笑いは、反まじめ』を、世の中に広めていこうとしている。

"『評論・教育・創作』の仕事で、笑いの大切さ・創り方を伝授"

相羽さんは、最近、奥様を亡くされた。葬儀での挨拶が、「亡くなった妻とかけて、春の小川の堤防と解く。その心は・・・つくしつくしの人生でした」、悲しい時でも、明るい気持を失わない、相羽さんらしい洒落言葉である。

相羽さんは、今も現役で、笑いをもたらしてくれる。また、笑いの大切さ、笑いの創り方を多くの人に知ってもらおうと、研究する姿勢でなく、楽しく『評論・教育・創作』の３つの仕事に、日々、取り組んでいる。そして、世の中が笑いで満ちあふれた心豊かな社会になることを願っている"笑いの仕掛け人"である。

クリエイトセンターホール

ナメクジウオにこだわる小嶋吉雄さん

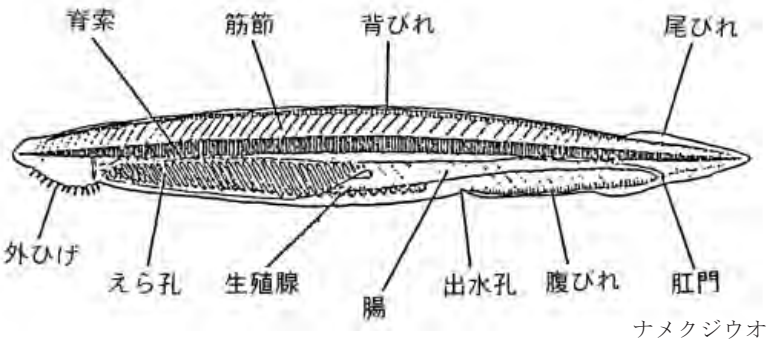
若尾隆一

動物の進化系統図を見ると、人間の祖先を頂点に高等脊椎動物が上位を占め、魚類が下位に位置している。魚の特徴の一つは脊椎があることだったことを思い出す。

ナメクジウオという名を聞いたことがあるだろうか？　ウオの名を付しているが、ナメクジウオには脊椎がなく目もない。５億５千万年の昔からひっそりと生き続けてきた。脊椎動物の進化史上20世紀最大の発見とされるシーラカンスは３億７千万年前に出現。これよりもはるかに古い。

このナメクジウオにとりつかれ、こだわり続けておられるのが小嶋吉雄（おじまよしお）さん。小嶋さんによるとナメクジウオが初めて研究者の目に触れたのは1778年（安永7年）の昔。ドイツの生物学者で探検家としても有名であったペテル・S・パラスが英国の海岸を散歩していた時、長さ５cmほどの笹の葉のような動物を発見、ナメクジを押しつぶしたような生物を意味するLimax lanceolatus（ヤリ状のナメクジウオ・脊索動物）と名付け、新種としてロンドンの動物学雑誌に発表したのが最初と伺う。

小嶋さんとナメクジウオとの出会いは10数年前、明石海峡の工事に伴う事前調査で、偶然にも淡路島沿岸沖で捕獲されたことによる。それまでも日



ナメクジウオ

本近海で時折採取されたが、希少種扱いされ研究用には入手できなかった。その折の吉雄さんの驚きと喜びを、奥様の清見さんが我がことのようにいまだ覚えておられる。

小嶋さんご夫妻（南春日丘の自宅にて）

小嶋さんがこのナメクジウオにこだわる大きな理由は、地球上のすべての動物の原点がこのナメクジウオにあると考えておられるから。近場の淡路島にも生息することが判明して以来、遺伝学上重要な位置を占めるものとして研究を継続、最近はＤＮＡの研究にも着手されている。

高知で生まれ、両親とも教師の家庭で育った小嶋さんは茨木中学を卒業後、生物の教師をされていた父親の跡を継ぐかのように北海道大学理学部動物学科に進学。卒業後折よく創設された関西学院理学部に迎えられ、以後長年にわたり教鞭をとられた。特に魚研究の学者として、世間からは“お魚博士"の異名をつけられている。理学部長を最後に退官された現在も日本海洋科学専門学校カレッジマスターの要職をされておられる。

近くの西陵中学校で毎秋実施されている“ふれあい学習"では、中学生の一番人気となったナメクジウオについて、ダイバーに依頼して淡路島西淡町沿岸沖水深10ｍから採取した数匹を水槽に入れて持参、熱のこもった講義をされた。

今年2002年１月に82歳になられた小嶋さん、長身細身の体をムチ打ちつつ、若者の中から多くの研究者が育つことを願っておられる。

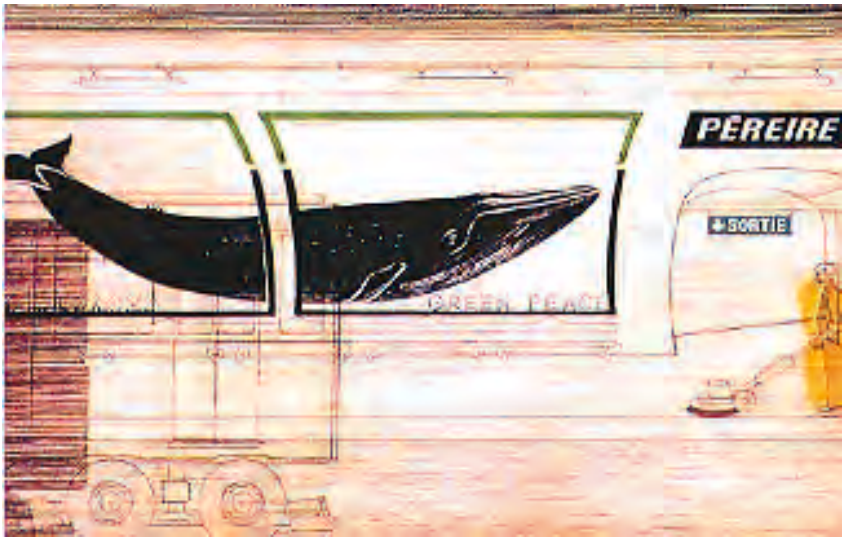
メトロ銅版画家・野口明美（のぐち あけみ）さん

佐藤眞生

この人は、日本人でただひとりフランス政府公認の芸術家マンションに住んでいる。茨木の宮元町に籍を置くが、日本よりは世界で著名な人である。フランスはパリの地下鉄・メトロの銅版画を描き続けている。

野口さんは京都芸大を７浪して八方ふさがりだった頃、キャンバスと絵の具をもって旅に出かけ、九州の青島で海辺の桟敷に寝泊りしながら絵を画いていた。そんな時、ボロボロの格好をしたある男に声をかけられた。その時は何も知らなかったが、彼は名古屋の老舗の三男坊で、新事業のブレーン探しの旅をしていたらしい。彼に誘われるまま、あちこちタクシーで観光し、ホテルに泊まり、優雅な旅をさせて

（地下鉄アルマ橋駅 62 × 90）



（地下鉄ペレール駅 56 × 76）

もらった。鹿児島で別れる時、所在を尋ねたが答えてもらえず、野口さんは自分の連絡先を告げて別れた。それから半年ほど経った頃、突然「京都に来た」と電話があり、五条坂で再会した。その折に、「どこか行きたいところはあるか」と聞かれ、「スペイン」と答えると、「行ってきなさい」とスポンサーになってくれた。

３歳年上の彼は一緒に旅をしながら野口さんをつぶさに観察していたようだ。スポンサーになってくれたわけを聞くと、「いろんな人に声をかけたが、疑心暗鬼でなく、ピュアーだったのは君だけだった」と言ってくれた。この出来事がメトロの銅版画へのめりこむきっかけだった。

スペインでアルタミラやラスコーの洞窟に描かれたバイソン野牛を見て、自分のしてきたことは何だったのかとショックを受けた。それだけでなく、洞窟の闇に描かれている古代人の絵の意味がまったくわからなかった。

ある時、パリのメトロの薄暗い構内でボーッとして看板を見ていたら、あの洞窟の疑問が氷解した。ああ、そうだ、古代人は、「この洞窟を抜けだしたらこんな世界があるぞ」というメッセージを絵にこめていたんだ。このメトロの広告にしても現代人のメッセージそのものではないか。こう感じて、この瞬間に自分の仕事はこれだと思った。

こうして野口さんは1976年から1980年までパリのアトリエ17でS．W．ヘイターに師事して銅版画を学ぶ。1989年から1991年までは創設された近畿大学文芸学部芸術学科で、絵画専攻の助教授をつとめるが、会議にうんざりしてこの道を捨てた。その後は創作活動に専念し、1993年にはジュンヌグラビュール大賞を受賞、爾後多くの賞を得ている。

野口さんのライフワークは366の駅があるというメトロの銅版画を全部描くことである。10年で100駅画いた。今半分くらいまではきた。まだまだこれからである。

パリの芸術家マンションを拠点に創作活動を続けながら、茨木にも時折戻り、個展を開いている。2001年の暮れには、ロサビアの茨木市立ギャラリーで個展が開かれた。まずは野口さんの作品の一端をご覧あれ。

私がいただいたお便りに同封されていたパリの“すずめ”もご覧くだされ！

パリの“すずめ”

芸術の森構想・竹内洪（たけうち こう）さん

佐藤眞生

ガラス工芸作家・竹内洪さん、茨木や日本より世界で著名な人である。茨木に住み、千提寺にアトリエを持つ。東京生まれの竹内さんが何故茨木の地に「芸術の森構想」を持ったのか。それは茨木が国際文化都市を標榜し、市の半分以上が市街化調整区域だったからだという。それまで３年有余の時を重ねて、高槻から宝塚の丘陵を探索し、伊丹と宝塚からはお誘いがあったという。しかし、自分は茨木市民であり、当時の重富市長から「是非がんばってほしい」という熱い要請もいただいた。自分がいるまちだから、文化を評価する改革の獅子たる市長がいるまちだから、自然に恵まれた丘陵があるまちだから、念願の芸術の森構想は実現できると思った。

竹内洪さん（千提寺のアトリエで）

色の違うガラスを重ね合わせる外被(そとぎ)せは1870年代から竹内さんが開発するまで世界の技術は1層から2層までだった。竹内さんは12層以上の技術を世界で始めて開発。竹内さんはさらにその外被せのガラスに圧縮空気で砂を吹きつけて100段200段と彫刻するサンドブラストの技法をも開発。まったくのオリジナルであり、右に出る者はいないといわれる。

この独特の技法による作品が世界的に最高の評価を得ている。

竹内さんのいう「芸術の森構想」とは何か？　まず、多くの芸術家を招聘し、都市に近接した山間部に点在的にアトリエを持ってもらう。アトリエの敷地内周囲には生態系を維持できるように照葉樹や広葉樹を植えることを義務づけ、アトリエは市民が見学することができ、創作の体験ができることを条件とする。こうして、茨木の北部丘陵地域一帯をミニ美術館にする。その上、ここには核となる美術館を設け、芸術地域に点在する作家の作品を展示して販売を行い、利益は地元に還元する。全国公募の芸術コンペや国際的な催しを企画する。イベント広場も併設し、コンサートや市民劇団の公演や時能(ときぎのう)などを季節に応じて企画する。

市からはミニ美術館めぐりができるように、マイクロバスを運行する。学校が教育的に利用する便宜をはかり、まず市民がリピーターとなって訪れ、やがて観光客にも興味を与えることができる。

竹内さんは、デザイナーとしてガラスの会社に就職した。天性の素質から、パッケージ・プリントなどのデザイン、さらには宣伝企画、インダストリアルデザインへと職能を広げていった。ガラスとのこうした出会いから、やがて光を通すガラス、灼熱と冷徹というガラスの奥深さにとりつかれ、独創的で固有の外被せとサンドブラストという工芸技法を編み出すに至る。サラリーマンの時期に、竹内さんは既に３層・４層の作品を完成させ、美術工芸品の商品ジャンルを開発しているが、会社は否定的だったという。そんな折に、大阪府の勧めで、ドイツのフランクフルトメッセーへ。会社を説得し作品を出品する機会を得た。結果は上々で世界からは絶大な評価がかえってきた。

竹内さんはこうして独立する。しかし、世界を席巻したこの技法を一代でとどめることを潔しとしなかった。技法を開放し、もっと広域的な展開をすることで更に技法に磨きをかけ理解者を増やすことを考えた。ここから弟子をとるようになり、さらに「芸術の森構想」へとつながっていったのである。しかも、この構想を発信し、ジャンルの異なる芸術家を糾合できるのは竹内さんをおいていないことも事実である。

竹内さんはものごとを実によく観察し精査する。作品題材の自然生態系は勿論、人に対しても、地域活動に対しても、すべてにそうである。深い関心、鋭い観察と精査、ここにこの人の愛の深さとぬくもりを感じるのは私だけではあるまい。

「芸術の森」計画書

竹内洪＆茨木未来倶楽部

1：芸術の森とは

茨木北部丘陵地帯に、あらゆるジャンルの芸術家を招聘する「芸術の森」構想は、「自生林の回帰」・「メセナの精神」・「人と芸術の融合」を目的とする。

戦後の林業政策で植林された杉、檜はスーパー林道と共にこれまでの日本を支えてきた。しかし、当時の森林や動物、池や沼、小川や水棲動物など自然の豊かさは姿を消し、将来森になる木も姿を消しつつある。

昆虫は激減し、風媒にたよる杉や檜の人工樹が三十年後には山全体を覆いつくす。杉、檜には虫がつかない。虫がいなければ当然、鳥も来ない。

虫のいない土はバクテリアの数も激減し、土に棲む虫もいない。落葉樹がなければ水棲動物も、それを食する魚も姿を消す。小動物がいなければ食物連鎖の頂点に君臨する猛禽類は根絶する。

虫がいないということは虫媒花で実をつける植物は全滅し、季節を楽しませてくれる花々は結実することもなく絶滅する。それを支え豊かにするのが落葉広葉樹の自生林である。

メセナの精神は芸術を支援する心であるが、この分野で日本は先進国の最下位を維持し続けている。それは芸術家と市民の温度差が大きいということである。しかし、欧州の多くの国は、音楽、彫刻、造形、建築、アート、造園、石畳、そして職種を現す看板、それらを包括した幅広いジャンルの芸術に日常茶飯に触れることが出来る。 感性豊かな子供達は、その中で自ずと芸術を耳にし、目に触れ、体感する。やがて大人になり理解者となる。理解者の多い国へ行き活動をしたい。理解者が多ければ生活も成り立つ。そして、もっと良い仕事が出来る。アーティストが海外で活躍をする所以である。

芸術の森は、芸術を理解し応援するメセナの精神を養い、一般人と芸術

の関わりを融合させ、自生林豊かな森を育み、多くの感性豊かな人々を育てる事を目的とするものである。

2：背　景

芸術の森は、茨木市のスローガンでもある「国際文化公園都市」の具体的な「核」となり得る。

また、芸術の森地域に完成する安威川ダムでは、単にダムを作るのではなく「水を造形」し、「川を演出」する。さらに、丘陵の麓にできる「彩都大阪」では、「あかりを演出」し、「森を蘇生」する。これら計画進行中の安威川ダム～彩都大阪を結ぶ約四キロメートルを緑の回廊で結び、演出することにより国際文化公園都市はさらに輝きを増す。

荒廃していく日本の伝統、生活習慣、社会生活の中で、人々の感性を養い、豊かさを取り戻す。それは子供たちの実践的な教育の場としても有効である。感性豊かな子供達は偉大な人に憧れ、美しい物に感動し、それを糧に志を持って生きていく。その上、世界に類の無い構想・施設は市民、行政がその創設に力を合わせ実践することができれば、市の活性化に莫大な波及効果をもたらすのみならず、国内外の範となりうる絶好のチャンスである。

3：目　的

第一は、茨木を「国際的な芸術の町」として発展させる。

第二は、日本では、かつてないメセナ精神の醸成ができる。

第三は、作家同士、作家と市民が、芸術を接点として交流し、社会や人生における芸術の持つ意味と人間的豊かさを構築する。

第四は、次世代に偉業を残し、その子孫や友人に、故郷のより所として誇れるものにする。

第五は、作家の活動や地域の生活がより良いものになり、結果としてそれが観光に繋がり、観光財源として市の経済的波及効果も期待できる。

第六は、彩都大阪や安威川ダムを単独の物と位置づけず、芸術の森が媒介となり、彩都大阪と安威川ダムを緑の回廊で結ぶ。

4：基本構想（コンセプト）

1　アトリエのあるエリアは自然そのものと生態系を維持し、いたずらに人工を施さず、自然の律に沿う。

2　作家の施設では作家本来の活動のほか、教室運営や来房者の体験、常設の展示を見学できるものにする。

3　販売と年間計画に基づく企画催事などを通じて交流を深める。

4　地域企画催事の成果は、その一部を地域活性基金に還元する。

5　利用者としての市民は、作家の創作活動を支援しながら、自由な交流を通じて人生を豊かにする。

5：枠組（フレームワーク）

(1) ロケーション

茨木市北部丘陵地帯の上音羽自然公園地域およびゴンゴンファクトリーのある車作地域、ガラス工芸作家竹内洪のアトリエがある千堤寺地域をトライアングルの拠点とし、この構想に賛同する地区および住民を含む広域な北部丘陵一帯を想定する。

(2) 招聘する芸術家

構想の提唱者である竹内洪を中心とし、あらゆるジャンルの芸術家を受け入れる。あらゆるジャンルの芸術家とは、基本構想に同意することを旨とし、造形に限らず、ビジュアルなものからクラフト、草芸、書作家、音楽家、出版工房、パフォーマンスなど裾野を広く持つ。

(3) アトリエ景観

1　可能な限り自然に融和する木造外観を基本とするが、ジャンルによっては主張したい建材もあるので必ずしもこれに拘らない。作家本来の個性や職種を彷彿とさせる建造物の景観を重視する。また、音や匂い、光などが問題となる場合には内装素材を吟味検討するほか、敷地を広く確保するなど迷惑にならないように配慮する。
設計は作家自身の感性を表現し、可能な限り建設にたずさわる。

2　アトリエ周辺には高木落葉樹や高木広葉樹を定植し、将来の自生森林を育てる。

3　視覚的な敷地境界線は無く、グラデーションをもって自生林に融合するのが望ましいが、やむなく境界を設ける場合はブロック、鉄筋などは極力使用せず低木自生種や周囲にビオトープになる池や水溝を配するなどの工夫をする。しかし、ジャンルによっては主張したい境界材もあるので必ずしも拘らないが、自然とミスマッチなものは排除する。

4　来客用の駐車収容台数は、五台以上のスペースを確保し、敷地外部に駐車することを禁ずる。また、隣接地に駐車場を設置する場合も、周りに自生樹木や低木照葉樹などの自然との融合を配慮したものにする。

5　資材などを屋外にさらさぬよう景観に配慮し、アーティストの感性で美的に覆う。

(4) 美術館

芸術の森全体の運営を司る核とする。企画展、個展を開催し、地域作家の常設展示販売を行なう。また館内では芸術の森作家の制作ビジュアル紹介やアクセス、体験や見学申込みから茨木探訪、観光、宿

泊などあらゆる情報が収集できるようにする。

館内ホールや野外ステージではコンサート、ライブ、創作映画、劇団公演などの催しを開催する。

美術館周辺は高木落葉樹、高木広葉樹や照葉樹で囲み、森の美術館にふさわしい景観にする。

(5) アトリエを結ぶ道

芸術の森を巡る道は景観に合わない通常のアスファルト舗装等は極力行なわず、基本的には自然の山道であるが、雑草始末や雨後の泥道を考慮し、小石と緑の顔料を混入した緑の舗装や石畳、小口を使った木畳、また作家のアトリエを彷彿とさせる材、例えば陶芸であれば陶器の破片を敷くなどの演出を考える。

車道と短距離で結ぶハイカー用の道を区分し、ハイカー用は500メートル毎にうだつ小屋をつくり、ベンチや給水場を設ける。

(6) アクセス

市街地からのアクセスは市営のマイクロバスなどを用意し、山間部一帯に点在するミニ美術館巡りとして定期運行する。また、ミニ美術館相乗りタクシーなどの専用タクシーも考える。「茨木探訪」「茨木観光ガイド」を購入すると、3回分の乗車チケットがあたるというようなインセンティブも工夫する。

6：計画推進体制とステップ

(1)「芸術の森つくろう連」

全市民規模の連(連とは共通の目的で結ばれた仲間という意味)を結成。

大阪府森林組合を軸に、行政・商工会議所・団体・学校・市民グループ等を含め賛同するさまざまな組織・個人に呼びかける。

(2) 支援者の募集

芸術の森つくろう連の形成を次のようなかたちで進める。

ａ）賛同する地域・団体・個人の資金出資者

ｂ）土地や連絡場所・通信機材・資材・道具などの現物提供者

ｃ）作業を支援する時間支援者（タイムバンクの結成）

ｄ）設計や施工などの技術提供者

ｅ）広報や宣伝などを支援する情報提供者

(3) 提案活動

企画書を起案し、国や大阪府、茨木市、企業、地元支援者や地区をも含め関連機構への提案活動を進める。

補助金を獲得する方途を探る。

(4) 契約関係

ａ）用地：美術館とステージは無償提供。森林組合または市による開発権の買い上げ、同じく森林組合または市による開発権の長期貸借。作家と地主は貸借あるいは売買、双方和議の上契約。

ｂ）建物：美術館とステージは森林組合所有。又は第三セクター運営。

ｃ）道路：森林組合が使用契約。私有地は許諾使用。

ｄ）作家特典：契約条件、建設資金補助、美術館使用優遇、ＰＲ援助。

(5) 推進ステップ

第一：主宰組織の決定

第二：企画・予算を含めた提案書の作成

第三：主宰組織におけるコンセンサス

第四：国・大阪府・茨木市・企業への提案

第五：支援組織づくり
第六：用地確定
第七：芸術家の招聘と契約（クリエーター登録）
第八：建設

7：予　算

総予算：用地、建物、道、運営、広報、初年度企画の検討。
ａ）美術館とステージ（本体とそれを取り巻く自生環境）
ｂ）道（特定舗装、柵、うだつ小屋、ベンチ、給水所、その他）
ｃ）里山管理（伐採、植林、ビオトープ、生態管理）
ｄ）広報（各行政機関、マスコミ、講演、ポスター、機関誌）
ｅ）アトリエ（宅地造成、樹木移植、仮作業小屋）

8：運　営

大阪府森林組合の事業として芸術の森つくろう連を発展的に「芸術の森運営部」として組織する。

全体構想を把握する最高顧問を置き、顧問２名、運営部、活動委員、その他の役割分担をし、組織として運営をする。

ふれあいスポット

茶房草の実・二人の絵描き

宿久庄といってもわかりにくかろうが、梅花女子短大の近く、須久々神社のすぐそばにひっそりと目立たない人家風の喫茶店がある。ここに阪神大震災で殆どを失った二人の絵描きが移り住んでいる。その一人・長谷川たか子さんは絵を描きながら震災のことを伝えたいと思い、もう一人の高瀬孝二さんは元々この地の人でもあり、ここを作家活動の拠点にと思いを馳せる。そんな二人の手記がある。

1995. 1. 17 阪神大震災

長谷川たか子

神戸市兵庫区において被災。あの長田菅原市場より歩15分程東。地下鉄２ヶ所が陥没した近辺である。街並みは家々の屋根がジグザグを描くように寄り合っている。電柱は垂直を保てず、クロスした電線が重なり妙に美しい。

遅い眠りに就くと間もなく畳に首を掴(つか)まれる感がし、直後突き上げられた。しばらくして二度目の揺れ。震度７。体感はＴＶとは随分異なる。家族の叫びは轟音にかき消され、口元だけが動いている。ＴＶのノイズに入り込んだようだ。隕石がぶつかったのかと思ったが、後にそれは建物が一斉に崩れる音だと解る。オーブン台がオーブンの上に、椅子が机の上に、短い鎖で吊った正方形の鏡は裏を向き、敷居の下に古い本やバッグが挟まっている。その時解らなかったが、家具が宙を舞い、壁を突き刺していた。本箱、食器棚のガラス戸が見当たらないのはガラスだけでなく、それを囲む桟が割り箸を裂いたように飛び散っていたからである。止まったエスカレーターを昇るようにして降りると、青い静けさの中、木造の家々が崩れ小さな山となって道をふさいでいる。薄煙と非常ベルが止まらずにいた。

小さな駐車場に地鳴りと余震の中、普段知らない人の輪ができ、それぞれが不安気に震えていた。「救急車きますよネェ」、「来ないでしょう。それよりも毛布で皆ひっつきませんっ」、私にはそれしかいえなかった。

額を打ったのか目のまわりの青い人を随分見かけた。血を流した人も・・・。瓦礫の中を裸足で逃げたにもかかわらず、大方の人が怪我をしていなかったのは不思議である。

避難所の３日間、水も殆どなく、トランプ大のカンパン一枚という日もあった。新開地と長田に挟まれた兵庫では普段から地域の結びつきが弱く、配給も遅れたようだ。いわゆる地の人が少なくなっている。

その日、妙な色をした太陽と、もし助かるのならもう一度絵を描きたいなあなんて、やけに冷静な自分がオレンジの中にいたのを覚えている。形ある物、命ある者は全て消え、そして何が残るだろう。生き残った私たちは何を伝えれば良いのだろう。消えないものを伝えなければ・・・。

心は死なない。私の場合、先立った人の思い、そして絵心。以前にもま

阪神淡路大震災で倒壊寸前の住宅（阪急沿線沿いで）

茶房・草の実　内部

して強く思った。

西宮まで６時間半歩き、まさか動いているとは思わなかった阪急に乗り、こちらへ寄せてもらうことになった。

絵については紙と鉛筆、それに多少色つけのできるものがあれば誰でも描けます。上手下手より心が大切です。優しい気持ちでいること、そして内的アンテナを張って感じること。花一輪、空の雲ひとつ、生きもの、季節の移り変わりにも心動かされる自分でいられたらと思います。

1973 年発足した教室は当時子供だった生徒が後輩となり、細く長く次世代へとつながって、年齢を問わない目指すところのアカデミー（美術を志す者たちのアトリエ）となっています。

絵画・創造は答えを捜し続ける作業。答えがあるのかないのかさえわからないが、それを捜そうとする姿に魅かれます。そこに人間にしか見出せない精神的成長や向上心をみることができます。

皆さんも童心に還って描いてみませんか！

わが桃源境

高瀬孝二

私ごとで恐縮です。私の住まいは茨木市と箕面市の境になり、北から寄せてきた山並みの終りかけ、最後の数十メートルという地面すれすれにか

ろうじて乗っかるかっこうでまさか落ちるわけでもないのでしょうが、何かこう想像していると妙に不安になったりするのは変でしょうか。

親に連れられてこの地に移り住んでから、あと２～３年で40年になります。少しづつ建物も増し、昨今は大きな造成もしているようですが、まだ緑は豊かに見えます。家の東は谷となり、田畑が何段か耕されています。ひょうたん池などもあったりして、のどかな風景です。谷の向かいには鳥羽の集落、間を茨木国際ゴルフ場へ向う道路が通っています。天気の良い日には何台もの高級車が登っていき、冬になると北風が降りてくるといった具合です。家はこの道路からわずかにそれ、やや奥まってあります。まわりには主に竹ヤブですが、栗や柿、紅葉、椎、山椒、不釣合いにシュロもてんでに生え、唯一外から見える東側を隠しています。家の裏手には山道があり神社やお寺に続いています。そのまま進めば梅花女子大の正門に出ます。村の裏参道なのでしょう、谷を横切り村に入っていきます。ゆっくり歩いても10分とかからない道のりですが、鎮守の森もあり、清清しい私の好きな風景です。舎田のようでそうでもなく、適当に中途半端でおもしろい場所ではないかと思っています。長々紹介させていただきました。

それで私はといいますと、この環境の中で絵画とステンド・グラス教室にサロン（茶房）を開き、贅沢三昧の毎日を過しています。が、しかし、外で尋ねられて最初からこう答えたことはありません。これで暮らしが立ち行けばこそ、いえ、嘘がない程度であればよろし

いのです。ところがそうはいきません。開ければ開けるほど苦しくなるという次第です。それで答えは「貧乏画家」です。しかし、またこれがすっきりしません。だいたい絵なぞ売れるわけもなく、生活するなど夢のまた夢、これを生業と呼んでよいのか？その度あらぬ方を見る私です。

「それで、何で食べているの？」とこられますと、またまた困るわけです。先週は野菜をいただき、昨日は誰々にご馳走になどなど、よく知る相手なればともかくも、とても説明のできる話ではありません。これが記載を要する場面になりますと「自由業」、ますます自分でもよくわからないことになるのです。

幼い頃より絵が好きで、空想少年を経て妄想学生へ進み、そのまま現在に至りました。それでも、以前は神戸を中心に絵画教室と称して数ヶ所お借りし、また、ステンド作家のお手伝いもしながらくるくる回っておりました。

10年程前には長田近くにアパートを借りる生活になっていました。そしてあの震災の朝を迎えることとなるのです。この世の終りかという惨状の中、命からがら逃げ帰りました。五体満足であったことは不幸中の幸いでした。それともうひとつお話のとおりの貧乏画家です。その後の生活、特に食生活などにさほどの変化もありませんでした。喜んでよいのでしょうか？

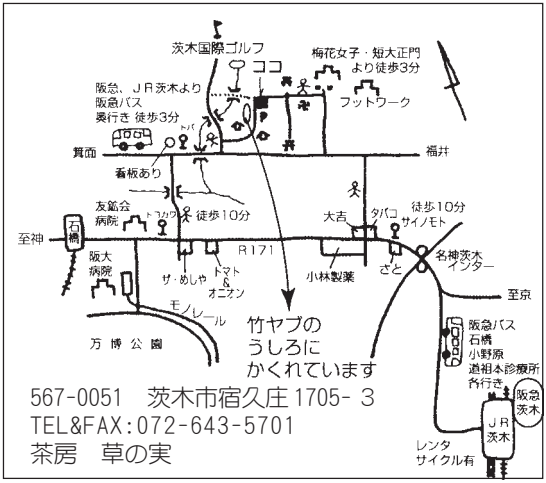
主な教室はなくなり、ステンドの工房も崖の上でこれはご遠慮申し上げ、残った教室を回りながら始めたのが今の暮らしです。根っからの空想少年は地震にもめげず、また絵そらごとを始めるのです。

自宅の自力改造、この地を私の桃源境に、金はないけど暇はある。かくして４年半の後一応の完成をみました。もともと古い街や白壁の蔵に興味があり、そこへもってきてイタリア・ギリシャ（ミコノス）なども思い描きながらの造作に、和とも洋ともつかないものが出来上がりました。教室を２階にし、絵画全般・老若男女に受験生、ステンド・グラスも平面・立体エトセトラ。それぞれご注文にも応じますし、来れない方には出張

も・・・。その上、教室の合間の一服にと１階も少々凝りました。２～３分で梅花ということもあり、免許をいただき一般の方のご利用も・・・。早い話が出来ますことならなんでもとの内容で、これがいかにも物欲しげであるのでしょう。待てど暮らせど一向に人の気配はありません。来るのは新聞か宅配便、稀に来られる方もあるのですが、あまりにたま過ぎて「何かご用ですか？」と尋ねる始末。知る人ぞ知るの目論みは、見事に成功し、知らない人は全く知らない。あたりからは見えもせず、来たい人すら辿り着けない、まさに謎の桃源境となったのであります。

主人は画家と名乗り、自由業と記し、緑の中に自作のアトリエを持ち、何をしているでなく、雲や山を眺め、思いのままに時を使い、常に瞑想にふける風。「ああ、明日どうなる、どうしたものか」、スリル満天、退屈などしたことがない。暇もない。悠悠自適、気まま暮らし、最高の贅沢、人はさまざまご形容下さいます。いかが思われますか？こんな暮らし。

覗いてみようかと思われる方へ。ゴルフ場へ登る道路の入口付近に右へ上がる急坂があります。見上げると他家の門が見えます。ここで断念する方が多いのですが、恐れず登ってみてください。前を過ぎると温室があり、、その前に白いポット型の看板が風雨に耐えて待っております。この間数十メートルの道のりです。この場所がいつまであるのかは定かではありません。念のため。



若園公園のバラ園

2200株のバラの競演

若尾隆一

アリヨス氏製作のモニュメント

茨木市南部若園町と真砂２丁目に位置する若園公園は、市の花・バラを植栽した【バラ園】で市民に親しまれています。平成６年４月に開園したバラ園は面積11ヘクタールに現在約150種、2200株のバラが植栽され、春から秋まで甘い香りを漂わせながら美しい花を咲かせています。

バラの品種で多いのは四季咲き大輪種のハイブリットティ系と四季咲き中軸房咲き種のフロリバンダ系、さらにはつるバラと称されるクライミング系と続きます。

バラ園内には水の流れを取り入れた全長70mのせせらぎや噴水池、バラ園全体が見渡せる展望所や休憩用の東屋が設置され、バラを盛り立てるトレリス(格子垣)やパーゴラ(棚)が準備されています。特に園全体を引き立たせているのが25本にも及ぶモニュメント風の円柱。この円柱には１本おきにつるバラが這わせられ、風情を醸し出しています。

バラに加えて2000株以上のスイセンも植栽され、春には華やかさを添えています。

重厚な扉のある正面出入口近くには金属彫刻家・アリヨス氏製作のモニュメントが設置され、２枚の花びらが合い寄り添うような造形に心引か

れます。

取材の際、作業中にもかかわらず仕事場の管理事務所まで案内してくださった岡田青年はじめ、世話の掛かるバラを陰で管理されている多くの人があることを教えられ、感謝しつつバラ園をあとにしました。

所在地　　茨木市真砂２丁目／ TEL 072-633-1764
交　通　　近鉄バス「真砂１丁目」下車 徒歩３分
バラの種類等　122 品種　約 2, 500 株
バラの見ごろ　６月・10 月の年２回
開園時間 午前９時～午後５時
休園日 毎週火曜日（当該日が休日に当る場合は除く）

ドエルのフランス菓子

近重美子／若尾隆一

その存在が広く知られているドエルの洋菓子。特に女性陣の間にはドエルの名がしっかりと定着、阪急茨木駅前店には時折店前に人盛りができるほどの人気ぶり。

そんなドエルの本社工場を取材で訪れた日曜日の午後、一目で温厚誠実さが伝わってくる柳楽(なぎら)社長に笑顔で応対していただいた。

創業は昭和43年の秋、すぐ隣は高槻市となる総持寺団地前に拠点を設立。それまで神戸で修行を積まれた柳楽(なぎら)社長が、独立を決意して拠点探しをされていた折、ふしぎな巡り合わせで現在の場所を与えられた由。それ以来30数年、でき立ての手作り味一筋に、顧客本位の店作りを展開、現在店舗数は最後に設けた茨木店を含めて６店。苦労話の節々にいくつかのこだわりを聞かせていただいた。

こだわりその①：菓子作りの基本は素材選びから。当初から明治乳業のフレッシュバターのみ。北海道十勝の生クリームを選定、自然の風味を出すために添加物は一切使わない徹底ぶり。

その②：会社案内の社長あいさつに数多く踊っていた言葉は心。菓子作りは作り手の心作りから。その心を菓子に託して顧客に届けたいとの願いから、優秀なフラン

ス人シェフを招いて若い技術者の指導を継続。本場の製菓心を習得して基本に従いつつ、一方では新しい味を求めて日本風にアレンジする開拓心を大切に。

その③：手作りの作り立て味をモットーに。現在も毎朝４時前からその日の仕込みのため職人さんたちが出社。“店を増やせば売上は伸ばせるが、手作りの味を軽視してまでやりたくはない”との話。

試行錯誤の中からパイ菓子『サクリスタン』など次々とヒット商品が誕生。現在の商品構成はショートケーキ類50％、ギフトセット30％、その他20％の割合とか。

社名のDOELはDWELL（居住する）に通じる。この茨木・高槻地域に根差した洋菓子の殿堂として、ますますの発展を祈りつつインタビューを終了した。

本　店／大阪府茨木市中総持寺町4-41
　　阪急京都線「総持寺」駅徒歩５分
　　府道高槻茨木線総持寺団地オアシス前
phone：072-632-8461 ／ fax:072-637-4041
open ： Am8：00 ～ Pm9：15

ＤＥ愛ほっこり見山の郷

佐藤眞生

2002年10月４日、茨木市北部の見山地区に、「ＤＥ愛ほっこり・見山の郷」がオープンした。３日間がオープンセレモニーで、3,900人強の人々が訪れたという。

見山の郷は、正式には農事組合法人見山の郷交流施設組合という。何をするかというと、有機・低農薬の農産物を販売し、農林畜産物の加工を行い、農村と都市の交流事業を展開する。

見山というのは、茨木市北部の７つの集落を総称している。下音羽・上音羽・銭原・長谷・清阪・車作・忍頂寺である。元々、これらの各集落では、農林事業の高齢化と後継者難を背景に、農村と都市の交流事業をそれぞれに工夫して繰り広げてきた。女性グループの加工組織の活動や朝市な

どは特に盛んに行われてきた。勿論、集落ごとにみると活動の密度に格差があった。それらの解消も含めて、見山地区全体の活性をはかろうというのが、この見山の郷の構想であったように思われる。各集落のほぼ全員が出資をし、国と市の補助も受けている。

オープンの３日間は見山地区あげて総動員の取り組みであった。各集落７つのテントと都市農村交流推進委員会などのテントが張られ、餅つきがあり、おでんがあり、ねぎやきがあって、どのテントにも列ができていた。野菜の販売も一気に売れて補充が間に合わない状況だったし、駐車場所がなく周辺の道路は車で埋まっていた。

見山の郷の施設は、農産物加工品見学コーナー、採れたて野菜・花販売コーナー、工芸コーナー、茶店コーナーで構成されている。農産物加工品見学コーナーでは、味噌・惣菜・豆腐・菓子の加工作業の見学ができる。野菜・花の販売コーナーでは、赤しそや大甘青とうなど生産者が明示された

安心できる商品を手に入れることができる。そして、茶店では、見山特産のおにぎり・鯖寿司・草もち・うどんなどが提供されている。

見山の郷に対する都市部の市民の期待は高い。各集落の主婦たちが長い時間をかけて築いてきた成果をどこまで糾合できるか、あるいは間断なく魅力にあふれた催しがどれだけ企画できるか、そして都市部にはない安全で安心のできる特徴のある品揃えをどのように調達できるか、このあたりが見山の郷の成否をわけそうである。

アクセスは、車が便利。171号線を中河原で右折し、福井方面へ走り西福井で右折して「忍頂寺福井線」へ入る。忍頂寺三叉路を直進、見山支所三叉路を左折、2～3分行くと左手に見山の郷が見えてくる。

バスを使うなら、阪急茨木市駅かＪＲ茨木駅から、阪急バス「忍頂寺行」に乗車、忍頂寺で、阪急バス「余野行」に乗り換え、長谷口下車。

問い合わせ先は、見山の郷交流施設組合で、電話は 072-649-3328

中央図書館

佐藤眞生／池田博保

自由で堅苦しくない、いい雰囲気

「中央図書館は咳払いが気兼ねなくできるので気楽に行ける」、中年の紳士にこんな感想を聞いた。私も、実はここに自由で堅苦しくないいい雰囲気を感じている。こんな図書館はあまりない。

まず、ラウンジが開放的でとてもいい。待ち合わせをしている人たちがいるし、軽食を食べたり、話し込んでいる仲間もいる。もうかなり前になるが、「男はつらいよ」の全作のポスター展もあった。

雑誌や新聞のコーナーには常連がいる。みんな好みのものをユッタリと読みふけっている。まるで自宅の茶の間の感がある。

レーザーディスクで映画を観ている人、リスニングコーナーで音楽を聴く人がいて、それでも順番をイライラ待つ人はいない。ここもユッタリし

ている。

２階の児童室が賑やかだ。でもうるさくない。伸び伸びと子どもたちが遊んでいる。おはなし室や紙芝居のコーナーもある。親も子も何か明るい。自由な幼稚園という雰囲気がある。

２階の多目的室がまた素晴らしい。私はここで「自主製作映画上映会」をしたことがある。100人くらいが楽に入れて、しかも、映画や音楽の設備も整っている。実に使い勝手がいい。図書館の行事もこの多目的室で頻繁に企画されている。講演会や展示会に素敵なものが結構ある（佐藤）。

「茨木の図書館は、本が充実していて雰囲気もよい。茨木の自慢です。いつまでもこの環境を保ってほしい」

茨木市民の図書館に対する意見を集約すると、こうなるようです。中央図書館が10年を迎えたのを記念して、図書館友の会『萠（もえ）』では、利用者の声を集めて、2002年７月に「萠（もえ）からの通信No.12」で紹介しました。「萠（もえ）からの通信」編集メンバーとして、アンケートの解析作業をした私は「萠（もえ）」に入会して２年目ですが、この意見は当たっていると思いました。

今後の課題は電子資料サービスの取り組み

責任者にお聞きしたらこんな考えをおっしゃいました。私は自分のホームページに図書館のホームページをリンクさせています。図書館のホームページには、「資料検索」というものがあり、自分の読みたい本があるのかどうかを自宅のパソコンで調べることができます。予約もできるようになれば最高ですが、いつかは実現すると思っています。

（茨木図書館の本が検索できるページ）http://www.lib.ibaraki.osaka.jp/

レファランスコーナーって何

貸し出しカウンターの一番奥に、「レファランスコーナー」（相談係）が

あって、職員が私たちの調べ物の手伝いをしてくれます。私は滋賀県に住む詩吟の先生をしている知人から質問されたことを相談に行ってもらった答えを送って大変喜ばれた経験があります。

「ハリーポッターと賢者の石」を読もうと穂積図書館のパソコンで調べたら、茨木に80冊あるが全部貸し出し中だったので、予約して2週間後に届きました。自宅に近い穂積図書館になくても、中央や水尾図書館にあれば取り寄せてくれます。茨木になければ府立図書館から回してもらって貸してくれます。さまざまなサービスがあるので、よく知って利用したいものです。

他都市や海外の情報も研究し、市民の暮らしに役立つ図書館にしようと努力されている図書館幹部の方々の姿を私は見受けています。私の老後は、病院でなく、自宅から30分歩いて、中央図書館とその北側に出来る生涯学習センターで、一日を過ごしたいなと思っています（池田）。

大黒屋のパン

若尾隆一

焼き上がりの時間に合わせて固定客でにぎわう、夕方にはショーウインドーからパン影が消えるほどあらかた完売してしまう、そんな店が養精中学校筋向かいの【大黒屋パン】。

まずは大人気のパン２種をご紹介しましょう！

【山型パン】

山型をした風味豊かな伝統の食パン。焼き上がりは午後４時過ぎ。直後は形が崩れやすいので、カットして封をせずに手渡し。良質の小麦粉をベースに添加物を極力押さえた自然派。ふんわりした中に、もちっとした弾力のある歯ごたえと、深みのある味を演出。この味が忘れられず、遠方に転居しても、大阪に来た時にはわざわざ買い求めていく人もある由。

【いかすみパン】

数年前から登場した真っ黒パン。名のとおりイカスミで黒くし、めんたい風辛みチーズを入れ込んだユニークタイプ。辛口のチーズ風味がパンと調和した逸品。焼き上がりは正午過ぎ。3時間ほどで完売される日が多い。

山型パンといかすみパン

取材に応じてくれたのは２代目事業主の堀田豊さん。先代のお父様が戦後間もない昭和23年頃、西駅前町に店を出したのが始まりとか。以前駅前にあった池が万国博開催でなくなったあと、今の場所に移って来たとの話。

以下多忙な作業の合間、２つの質問に応えていただきました。

Q. 現在のパンメニュー数は？

A. 約70種です。人気が出てもある程度数量に上限があり、現状伝統の山型パンで１回30斤、いかすみパンは日に80個程度。パンはおやつ替わりの感覚がありましたが、昨今は若い人を中心に食事をパンでする人が増えています。当店でも野菜・ハム・フライなどを挟み込んだ“調理パン"に人気が出ています。

Q. 長い間パンづくりをやってこられて、今感じておられることがあれば？

A. 一見簡単そうに思えて、実際感じるのはパンづくりの底の深さ・難しさです。我ながら納得のいくパンづくりができたと思う日はそんなに多くはありません。まだまだ日々精進の連続です。

とインタビューに笑みを浮かべながら、遠慮がちに応えてくれた豊さんに好感を抱きながら店をあとにしました。

大黒屋本店／072-622-5239
大阪府茨木市駅前通り３丁目３－３

西陵中学校区レッツ青少年会

坂東　暁

こんにちは。茨木市の西のはじっこ、西陵中学校区で小学生を対象としたボランティアを中心に活動しているレッツ青少年会といいます。

創設は1985年ですので、もうかれこれ17年もたつのです。現在のレッツのメンバーは、西陵中学校区の中学生から社会人まで約40名。殆どが地区のジュニアリーダー研修会「沢池・西ジュニアリーダー研修会」の卒業生です。年齢層が広い上に、みんなの話しやすい言葉で喋るので、たくさんの兄弟姉妹がいるみたいで和気あいあいとしています。

年間のいちばん大きな活動は、「沢池・西ジュニアリーダー研修会」の企画・実施のお手伝いです。ジュニアリーダーというのはこども会の中心になる人で、プログラムの中で研修リーダーに必要な資質を徐々に身につけていけるように組まれています。例えば、2002年の研修では、野外研修としてイニシアチブゲームと地域に役立つことを取り上げ、宿泊研修として（野外炊さん）キャンプファイアー・テント宿泊・トーチサービスなどが組まれています。小学６年生10名ほどのグループに、中高生がリーダーとしてつき、一緒に話し合いを進めたり、キャンプでは生活を共にし自炊や山遊び、キャンプファイアーのスタンツやワーク活動をしたりします。グループにつかないメンバーはスタッフとして、子どもたちがたくさんの大切な体験をできるように準備をしたり、裏方としてキャンプを支えるために頑張っています。ときに、精神的にも体力的にも大変な思いをしますが、それを乗り切ってキャンプを終えた時はやりきった～っていう感動と仲間達への愛おしさで思わず涙がこぼれます。

キャンプのあとも、キャンプで得たことの実践として地域で何か役立つことをしようというわけで、小学６年生たちと地区のゴミ拾いや児童公園の整備を行いました。

ジュニアリーダー研修会のほかには、メンバー自身の研修キャンプを年４回（かまど実習やロープワーク・ネイチャーゲーム、山遊び等々経験を積みます）、地区のおまつりへの出店（2002年は水鉄砲の射的をしました）、運動会のお手伝い、敬老会での出し物（歌と手遊びゲーム）などなど、地域行事にも積極的に参加して地区のひとたちとのふれあいも大事にしています。また、それぞれの行事の中で中学生・高校生の企画力（みんな自分たちで行事の企画をするんですよ！）やお互いを支えあう気持ちを育んでいけるように努力しています。

今年、LET'Sで長年中心となってがんばっている通山未来さんが平成14年度善行青少年内閣官房長官表彰をうけました。長年、地域活動に力を入れてきた成果とうれしく思っています。

また、どこかで「LET'S」の文字の入ったグレーのトレーナーを見かけたら、声をかけてくださいね！　元気印の中高生がとびっきりの笑顔でお迎えします。それでは、また。

問合先：坂東　暁　072-626-4992

レッツのホームページ　http://www.hcn.zaq.ne.jp/kakurega/

「茨木の元気な若者たち」

～駅前広場のギターリストたちを訪ねて～

平野正善

阪急茨木市駅前広場などで、賑やかに演奏しているギターリストたちがいます。彼らが、どんな想いを抱いて集まっているか尋ねました。また、周りの人々が、彼らをどのように感じているかも聞いてみました。

阪急茨木市駅前広場

＜ギターリストたちの想い＞

１．男２人のギターリスト（以下、仮名）、

園田君（16才）、河島君（15才）２人とも高校生、フォークソング部。半年くらい前から、休日の夜に集まって練習。「プロになることを、夢見ている。始め少し恥ずかしいが、すぐに慣れる。集まってくれると嬉しい。年輩の人も、時々聴いてくれたり、逆にギターを弾いてくれることもある」

☆聴いている女性、田島さん（19才）

「１年くらい前から来るようになった。多い時で、週３回くらい聴きに来る。寒い時でも楽しい。勇気もらったり、寂しい気持ちを受け入れてくれる。彼らは、心から歌っている」

２．10人位のグループ

今里君（17才）、我門君（17才）、児島さん（18才）、上山さん（17才）ら、主に男性がギターと歌。女性が聴く人。２、３年くらい前から、休日に集まり、夕方から夜遅くまで。「ここで知り合った人が多い。友達と会えること、そして、一緒に歌ったり聴いたりすることがとても楽しい。近々

ライブ予定のため、今日はその練習」

3．男２人のギターリスト

丹下君（20才）、亀山君（19才吹田市）、２人ともバイト生活。ギターと歌を、毎日２～３時間練習。「駅前で、まだ始めたばかり。大勢集まると気持ちいい」

4．男２人、女２人のダンスのグループ

茨木市内の高校３年生。グループ名は、INACREW（イナクルー）。「文化祭の準備で、ヒップホップ（ダンスのジャンルの１つ）を、毎日練習中。仲間と過ごすのが楽しい」

＜周りの人々がどのように感じているか＞

通行中の人々50人（男25人、女25人）に聞いてみました。

結果（詳細は、集計表をご覧ください）

◆全体では、①「いいと思う」半数　②「迷惑に思う」約２割　③「どうも感じない」約３割。

◆年齢別では、若年層は、いいと思う人が多い。中年層は、迷惑に思う人が半数近くいる。

◆男女別では、ほとんど差がない。

（単位：人）

		全体	年齢別内訳		男女別内訳	
		計　（比）	若年層	中年層	男	女
①	いいと思う	25　（50%）	16	9	12	13
②	迷惑に思う	11　（22%）	3	8	6	5
③	どうも感じない	14　（28%）	10	4	7	7
	計	50	29	21	25	25

◆その他のコメント

・応援したい（10人）
・自分もやってみたい（5人）
・いいと思うが、人が多くなると迷惑（以下１人）
・ゴミが出るので迷惑
・市などが主催してオーディションやればよい（中年男性）
・夜遅くなると心配

友達と一緒にいることが一番楽しい年頃。また、一緒に活動できることは、素晴らしいこと。しかし、迷惑に感じる人も大勢いることを忘れず、多くの人から愛されるギターリストに育ってほしいものである。

茨木更科　茨木歴史のやかた資料館

矢島恒子

茨木で一番古いそば屋さんという「更科」をお訪ねした。

行ってみてびっくりした。なんとここはそばも凄いが、店内の展示品が素晴らしい。ソバチョコ、兜、火縄銃、等身大の「あ」・「うん」二体の仁王像、隠れキリシタンの遺物の数々、それに、国鉄茨木駅・茨木小学校・税務署・検察庁・洪水の折の今の阪急本通商店街・敬老会などの時代ものの写真がところ狭しと展示してある。

その訳を聞いてみた。そばは注文を聞いてから２～３分はかかる。お客さんはそばが手元にきても新聞や雑誌を見ながら食べる人もいるので、それらを店に置かない。更科のご主人はこれが嫌なのである。こだわりの麺

コレクションについて語る北村店主

隠れキリシタンの手鏡や、好事家垂涎の豆本「マテオ福音書」をはじめ、
戦国時代の鉄砲、鎧、ヨーロッパの美術品等々、見るべきものが多く、
好きな人にとっては、とても蕎麦を食べているどころの話ではない。

はしっかり味わって欲しい、だからよそ見しながら食べて欲しくないというのである。

更科は休憩時間もとれないほどひっきりなしのお客さんで賑わっている。そばに人気があるのだろう。しかし、骨董品などの展示品目当てのお客さんも多いようである。小学校の先生が生徒を引率してやってくる。火縄銃の体験をさせて種子島の勉強に来るのだ。学校や市の資料館への貸し出しも快く引き受ける。貸し出した折に、高価な漆塗りの箱を破損されたこともあったようであるが、それでも見ていただいてお役に立てればいいと、貸し出しをやめることはしないご主人である。取材に伺った私にも、隠れキリシタンの手鏡を取り出し、手にもたせていただき、細かい解説を丁寧にしてくださった。

こだわりといえば、店内のテーブルやイスも素敵だ。古いヨーロッパ製のもので、テーブルは人数に応じて伸縮自在だ。100年以上前のステンドグラス製のドアや天井のランプも趣きがある。そば屋とヨーロッパ、和洋の混交がここでは不思議にマッチしている。その上、奥様のこぼれんばかりの笑顔とおもてなしが花を添えている。

百聞は一見に如かずという。茨木にこんなそば屋があるとはふるさとの誇りである。

所在地　大阪府茨木市本町2-16
茨木更科／北村孝／電話：072-624-2616

よしだ珈琲店

知る人ぞ知る本格派珈琲の店

若尾隆一

固定客が半数以上を占め、知る人ぞ知る本格派珈琲の店、それが駅前通り３丁目側にある【よしだ珈琲】。

まずは店推奨のコーヒー２種を、店内に張り出されている掲示文でご紹介しましょう。

【アメリカン】

当店のアメリカンはソフトで香ばしい香りと、軽い酸味が特徴です。フレッシュ＆コーヒーシュガーで幼い頃の味がよみがえるでしょう。生豆に近い浅煎りの豆からその旨みを最大限に引きだした上品な風味です。一度お試し下さい。

【イタリアン】

珈琲本来の苦味と深いコクを追求した当店のオリジナルブレンドコーヒー。その苦味はさっと広がり、さわやかな余韻を残して消えてゆきます。そのローストの深さと独自のブレンドにこだわりをもって名付けた「イタリアン」。よしだ珈琲は自信をもっておすすめします。

喫茶店ならどこでも扱ってるアメリカンのつもりで注文すると、面食らうのがこの店のアメリカン。全くイメージを異にしたコーン風味の香ばしさが広がります。さしずめアロマティック・アメリカンとでも呼びたいユニーク品。

珈琲専門店でないと扱ってないイタリアンは深煎りの苦味が売り物。これに深いコクを加えたのがよしだ珈琲のオリジナル。一度味わうと、病み付きになりかねない逸品です。

よしだ珈琲店の店先

２品とも400円出すとお釣りが１円バックされるのがうれしく、何やら得をしたような気分にさせられるのも、この店だけの芳醇な珈琲味のせいだと思われます。

取材に応じてくれたマスターのインタビューから、店の創業は平成元年と判明。現在チケット客は約80人。コーヒー以外でのマスターのおすすめは自家製レアチーズケーキと多彩メニューのランチとのこと。ケーキセットかランチコーヒーも一度味わってみたい気分にされつつ店をあとにしました。

よしだ珈琲
大阪府茨木市駅前通り３丁目１－２
OPEN:am7:00 ～ pm7:00

日本キリスト教団茨木教会

若尾隆一

礼拝堂

保健医療センターの裏にそびえる、ワイン色したレンガの塔の教会。それが【茨木教会】です。茨木市に10近くあるキリスト教会の中で最も歴史が長く、1995年に創立百周年を迎えました。

旧日本基督教会に属し、1895年(明治28年)、現在の元町に講義所を開設、1925年に最初の教会堂を現在の末広町に建設しました。

その後1934年の第1次室戸台風で教会堂が倒壊、翌年２番目の教会堂を現在の西駅前町に建設、春日丘高校筋向かいの場所で半世紀以上にわたって伝道を続け、1988年春日３丁目に移転、現在に至っています。

その間1941年には、プロテスタント教会で日本最大の合同教会である日本基督教団の成立に伴い、これに加入しました。

茨木教会は開拓伝道によって千里丘教会(吹田市千里丘)、茨木東教会(茨木市寺田町)、茨木春日丘教会(茨木市北春日丘)を生み出しました。この３教会と茨木教会は改革教会の伝統を重んじ、長老制度による教会形成を志向、1995年“茨木四教会伝道会"を設立、それぞれが協力して伝道の強化に努めています。

茨木教会の現況（2002年９月現在）は次のとおりです。

教会員数:190名、礼拝平均出席:125名、聖書の学びと祈りの会出席者:

30名、教会学校生徒数:75名

茨木教会付属の施設として【めぐみ幼稚園】があります。1949年（昭和24年）に大阪府から公認された、茨木市内では最も伝統のあるキリスト教保育幼稚園です。現在在籍125名の園児が、聖書の人間観に基づく教育方針により、心身ともにバランスのとれた人間になってほしいと願っています。

【教会学校】は以前日曜学校とも呼ばれていた、子どものための教会です。『青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ』との聖書の言葉に従って、毎日曜日朝9時から幼児科・小学科・中高科に分かれての学びが行われています。物質的豊かさの陰で、人間としての大切なものを失いつつある子どもたちの、心の問題を大切に考えます。

教会を知ってもらうには礼拝に出席するのが早道です。

日曜日朝10時半からの[主日礼拝]では、聖書に基づいた説教がなされ、神をほめ讃える讃美歌が歌われ、祈りが献げられます。300名収容の礼拝堂で行われる主日礼拝に、ぜひ一度お出かけください。

健康づくり！　MOA自然農法農場
「泉原の郷」

赤松民男

豊かな自然に抱かれた茨木市には数多くの棚田が残されていますが、中でもここ「泉原の郷」は360度眺望の美しい棚田として有名です。

江戸中期の明和年間（1760年代）村田季武（すえたけ）という学者が、私塾「盈科（えいか）書院」を維持するために開き「泉原新田」と呼ばれたところと［茨木市の歴史］（茨木市教育委員会編纂）の中に載っています。

水利組合７軒のオーナーがおられますが、その一人が茨木市の鈴木さんです。岡田茂吉師が創始・提唱した、農薬を使わず化学肥料を使わず、堆肥を利用して土本来の力を発揮させるＭＯＡ自然農法を実践して10年目になります。

自然農法、自然食生活の普及を目指し“癒しと健康づくり"の為の農場です。

花苑４アール、果樹園４アール、菜園22アールと周囲は雑木林を縫って0.7㎞の散策道があります。

日頃ＭＯＡ自然農法北大阪普及会の会員が訪れ、ボーイスカウトや一般の方々にも農作業、収穫、花作り、散策、お茶、お花を楽しんで頂いています。秋には稲の刈り取りのあとの田んぼをお借りして、“収穫まつり”を行います。野点、いも煮会、いも掘り、大根、さといもの収穫などです。

特に地元との交流を大切にして、健康と幸せの輪がここから広がればと顧っています。いつでもどなたでもお訪ねください。

ホームページ

http://www6.ocn.jp/~kinoko/(ＭＯＡ自然農法北大阪普及会)

e-mail　kinoko@oregano.ocn.ne.jp(赤松)

tel・fax　072-641-1426(赤松)

「泉原の郷」の自然（四季）

“泉原に一足遅い春が来た　谷はうぐいす山さくら花”

うぐいすが早春より初夏にかけて鳴いています。

棚田に水が張られる５月　雉が茂みで子育てをはじめます。

新緑から深緑につれてカッコウの声が響き、ホトトギスがやって来て鳴き飛び交います。

“棚田撮る　ビデオに落つる水の音”

“カッコウが　鳴く高原の　自然農”

“オチョコケタカ！　オチョコケタカとホトトギス我を呼ぶかよ泉原の野に”

泉原には可憐な花々が咲きます。

霜や雪の日もあるという冬なのに陽だまりの中で「オオイヌノフグリ」が青紫の10ミリ足らずの花を群生して咲かせます。

関西タンポポがあざやかな黄色で最も早く春を告げて咲いてくれます。萼(がく)は外にそり返らない花弁に密着した日本古来の種です。

純白清楚な梅鉢草が咲きます。天然記念物につきこれは採取が禁じられています。いつどこに咲くかはヒミツ！

春の“アザミ”秋の“キキョウ”は他では見ることが出来ない妖艶な紫をしています。

林はくぬぎを主に桜、栗などです。灌木として青木、紫式部、山紫陽花が見られます。実は小ぶりながら“あけび”もたくさん蔦をからませて木々の中にあります。今年は“シイタケ”の栽培も始めました。春、菌打ちをしたホダ木に、来年の秋、“走り子”（最初のシイタケ）が生えることでしょう。

MOA自然農法農場「泉原の郷」を訪ねて

矢島恒子

「泉原の郷」をたずねて驚いた。

先ず花畑。今は花のシーズンも過ぎて夏枯れ、種類も数も少ないと言われたが綺麗に形作られた花畑には色とりどりに色々な種類の花が咲き乱れ、蝶や蜂が飛び交い“天上の花畑"そのものである。春に来たらさぞかしやと・・・。

つぎに野菜の種類の多さ。トマト、胡瓜、ピーマン、オクラ、万願寺、黒豆、なた豆、モロッコ、ゴマ、里イモ、サツマイモ、すいか、うり、なす、ゴボウ、玉ねぎ、ニラ、おおば、等。

果樹園には桃、リンゴ、びわ、杏、花梨、ブルーベリーの幼木のほか、今は、キーウィ、柿、いちじくの実が鈴なりである。

また椎茸山まで作られている。

環境のためにケナフも高々とそびえている。

すべて無農薬、無化学肥料の栽培だそうである。発酵完熟堆肥を使用して土つくりを基本にしているとか。大勢で同じ目的に向かって力を合わせればここまで出来るとは凄い事である。

それと皆んなで楽しく集える広いお座敷付きの山小屋がある。そこでは取れたての野菜で料理も出来る設備もあれば、バーベキューの出来るコーナーもある。

赤い毛氈が用意してありお茶席にも早変わりする。

このシチュエーションと心のこもったお手前でのお抹茶の味は格別美味

しかった。

きちんと整頓された農機具小屋にはトラクター、発電機、多数の鍬、鎌、長靴、麦藁帽子まで用意されている。それらを囲むように美しい「棚田」が曲線を描いて・・・。

今お隣の稲穂が膨らんで来てとても美しく黄緑色に染まっている。そういう景色を眺めながら“散策の道"を歩いて見るとポイント毎に手作りの立て札がある。この郷の入り口の「落ち葉しぐれ臨道」から始まり「光琳の道」「柿の木坂」「どんぐりころころ階段」を登り「ケナフの入り口」を通って「村田季武の眺望」へと続く。夢のある楽しい～道、道、道。そして素晴らしい眺望。

この農場から２キロメートル程山あいに昔から泉原の人々が大切に守り続けている知る人ぞ知る銘水「泉原の清水」がある。

町なかの人も大勢この水を汲みにやって来る。平日の今日でも長い車の列。

一口飲んでみると冷たくて美味しい！納得！もちろん水質検査済み。

これらを含めて毎日でも来たくなる“癒しと健康の郷”「泉原の郷」である。

茨木／団居農園

佐藤眞生

忍頂寺の一角の棚田を七反使わせてもらい14家族が野菜づくりをしている。農薬や化学肥料はできるだけ使わず、その分虫や鳥や猿などとも分かち合いながら、半自給を目指している。

昔から行われていた「結い」という共同作業をしながら、それぞれ自分にできる範囲の個人用の畑もある。

「結い」は月に三日、第二土曜日と第四日曜日、それに定年退職組もいるので第二火曜日である。作付け係がいて、大根・ジャガイモ・かぼちゃ・里芋・唐辛子・さつまいも・玉ねぎなどを一緒に作っている。「結い」の日はほかに堆肥作りや椎茸のホダ木の伐採、竹木の整理などもある。

お昼は弁当をつつきながら談笑に花が咲く。野菜博士もいるし、大工見

習もいる。教え魔もいるし、仕切り屋もいる。茶化しも、ダジャレも入る。それがとてもなごやかである。

この棚田は風光明媚で、大阪湾が一望できる。晴れ上がった日には伊丹空港へ発着する飛行機も手にとるように見える。鳥もいるが、鶯の学校もある。湧き水に蟹もいる。

四季に「野草てんぷら」をする。誰もが知っている野草を摘んで、てんぷらにする。それを茶塩でつまむ。食後には笹の葉を焼け石に乗せて笹茶をすする。

年中行事も結構あって、春は地元の節分会に皆ででかける。千円の会費で一日楽しめる。お餅やお味噌のお土産まである。花見も素町らしい。一番上の畑に桜の巨木があって、これが大きな傘を広げたように畑に屋根をかける。このところ、花見の日にはアロアロ組のフラダンスが定番になっている。

五月になるとサッポロビールまつりに野菜市をはる。自分たちの作物も売る。主婦で朝市をしているあじさいグループからも仕入れる。このまつ

りには茨木のたくさんの人が集まるのでいつも午前中に売り切れる。

６月は農園主との年に一度の懇親会がある。全員が顔合わせして一年の報告をする。使わせていただいている畑の更新の月でもある。団居農園の総会も兼ねていて、役員改選も行う。

秋にはケナフの催しがある。紙漉きやクッキーづくりやケナフうどんなどをつくる。ケナフは種を取り、栽培して、皆で育てている。忘年会は時々畑で行う。野菜鍋なんてのをする。畑でとれた水菜に水煮の缶詰を入れた料理だが、これが素直にいただける。

団居農園の会費は、農園主へ農機具の使用料や指導料としてお渡しする6,000円と「結い」の種代や農機具の油代などで4,000円、合計年１万円である。催しの費用はその都度集めている。

この農園は区画の使用料を払って畑を借りる普通の市民農園ではない。人手不足で田畑の管理のできない農家を、野菜づくりをしたい市民グループがお手伝いをするという形になっている。だから、農園主と団居の会が田畑の管理について覚え書きを交わして仲良く助け合っている。

農園の所在地は、茨木市忍頂寺の中尾垣内176。

連絡は世話人へどうぞ！　電話：072-636-0393／佐藤眞生

大阪一望

一瞬、人の足を停めるような景色には何かがひそんでいる。それが何なのかは多分人の心のありようによると思う。

忍頂寺交叉点を車作方面へ600メートルほど行くと、右に忍頂寺小学校、左に浄福寺がある。この寺を左折してしばらく進むと忍頂寺が右手に見え、左にカーブする登りを詰めたあたりの山側に３軒の民家がある。その真中が矢野勝さんの家である。ここは忍頂寺176番地。

ここから南を眺める。大阪梅田の巨大なビルが手にとるように見える。大阪湾に船が浮かんでいる。西へ目を転じると伊丹空港を発着する飛行機が飛び込んでくる。更に西には淡路島が霞む。

鳥になった気分である。上から眺めるというのは気分がいい。視界180度に、人工の粋があり、海と島と空が眩しい。心に靄があったら雲散霧消する。みんな飛んでいってしまう。

寒気でふるえる冬の雲の切れた日が格別にいい。台風一過の透き通った日もいい。この景色は気分壮快の良薬である。

街道と歴史のかいわい

茨木の歴史的な位置

大阪の北部に位置する茨木からは、旧石器時代のナイフ形石器が出土しており、紀元前13,000年から人間が住んでいた形跡がある。さらに縄文時代・紀元前5, 000年の爪形土器や住居跡も確認されている。茨木は太古から人間が生活する適地としての評価があったものと思われる。

弥生の銅鐸、古墳時代の継体天皇陵ほかの古墳群を経て、律令国家の形成期には氏族寺院が多く建立され、平安時代には式内社が13座もできており、これは今でも市内に現存している。

初代神武天皇の皇后・五十鈴媛命は茨木に出自を持つ。そして、茨木は大和や京への街道の要所であった。日本初の国道といわれ大和から大陸へ通じる竹内街道はじめ西国街道も茨木を経由している。江戸期には浅野内匠頭など参勤交代の行列が通過し、小浜あたりから海藻を入れて寒天が加工され、鯖寿司も常食されていた。

茨木には20を数える城があったが、それはわずかに280年の間だけで、その前も後も、茨木は門前町、室町期には一向宗が広がり石山本願寺方に参戦している。

高槻領だった頃には高山右近の布教もあってキリシタンも多かった。見えないものや形のないものを信仰する深い心が育まれる土壌があったのだろう。

茨木は名水のまちともいわれ、かつては五名水があり、茨木神社の黒井の清水は秀吉がわざわざ大阪城の茶会に運ばせたという。また、別に５つの井戸があり、竹管で町家に上水道が引かれ、水道で町内組織ができ、竹管を掃除する当番があり、これが町民自治の原型となったといわれている。

茨木の旧街道

茨木まちづくりネットワーク

1　『街道』のおいたち

東海道53次の『東海道』は、徳川家康が全国の交通網整備として今から400年前の慶長６年(1601)に着手しています。このとき『中山道』など五つの街道がつくられ、これを『江戸期五街道』と呼びます。

また、日本で最初に道路網が作られたのはもっと古く大宝２年(702)にさかのぼり、当時の都があった平城京(奈良県)やその後の平安京(京都府)と諸国を結ぶ７つの官道があり、こちらは『古代七道駅路』と言い、なかでも重要な役割をもったのが都と太宰府(福岡県)を結ぶ古代の『山陽道』でした。茨木市内の旧街道で最も知られているのが『西国街道』ですが、古代の『山陽道』が『西国街道』の前身と考えられています。大山崎町や高槻市では古代の『山陽道』の遺跡が『西国街道』に沿って見つかっており、茨木市内にも太田付近に古代山陽道の「殖村駅(えむらうまや)」がありました。

竹内街道

そうしますと、遣隋使や遣唐使が中国や朝鮮の文化を都に伝えるために“この道"を使っていたことになり、『西国街道』を歩くと想いを古代に溯ることができます。

さらに推古21年(613)には「難波より京に至る大道を置く」と日本書記に記録されており、我が国最古の国道とも言える「大道」が飛鳥時代に大阪から奈良に通じており、これが現在の「竹内街道」(国道166号)で、『街道』は千数百年前の古代からの永い歴史をもっているのです。

2　『西国街道』点描

『西国街道』は古代からの歴史をもち、京都と西宮を結び江戸時代には参勤交代の大名が利用し、茨木には「郡山本陣」が置かれていましたが、昭和初期に「国道171号」が開通し旧街道ととなりました。『西国街道』の名称は通称で、公称は『山崎通』でした。「山陽道」が「西国路」とも呼ばれたことから『西国街道』の呼称が生まれたと考えられています。

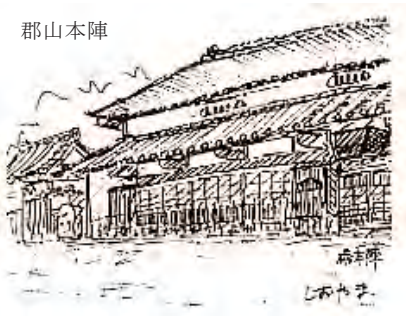
『西国街道』は茨木市内では高槻市境の高田町９番から始まり太田３丁目では「茶臼山古墳」の前を通ります。この大型前方後円墳を「継体天皇陵」とする説には疑問がもたれ、近くの「今城塚」の方が有力視されています。

東芝グランド北側付近は「雲見坂」と呼ばれ、この近くにあった「太田城」の城主が雲の動きを見て天気を予測したと伝えられています。また、交差点角の市教育委員会の案内板によると紫式部が腰をかけた石がこの坂にあったとも書かれています。

太田１・２丁目に入ると町並みも往時をしのばせるものがあり、「一里塚」跡も残っています。安威川を渡り十日市町を経て耳原３丁目の集落の外れには「白井

河原の合戦跡」があります。

ここは元亀２年(1571)に織田信長勢の荒木村重、中川清秀らと摂津豪族茨木氏に味方した高槻城主和田惟政勢が激突し茨木・和田勢は破れましたが、このとき白井河原は唐紅の流れになったと伝えられています。


郡山本陣

合戦で戦功をたてた中川清秀は茨木城主に、戦死した和田惟政の供養塔は五日市２丁目に残ります。

茨木川の「幣久良(てくら)橋」を渡ると中河原町に入り『亀岡街道』(現府道)の交差点に復元された大きな『道標』があります。また、白井河原の合戦に加わり、茨木城主になった中川清秀の由来の地であると印した案内板も立っています。

勝尾寺川に沿って進むと下井町で、「国道171号」と交差し宿川原町に入ります。すぐに『茨木街道』が左手に分岐し、ここにも『道標』が立っています。

「郡山宿本陣」はこの道標から200m程西にあります。門横に椿があったことから「椿の本陣」とも呼ばれ、国の史跡に指定されている貴重な建物です。

さらに西へ進み「山下橋」の少し上流側には『ぼろ塚』があります。ぼろ塚は「徒然草」に、“ぼろ"(虚無僧)の「しら梵字」が自分の師の仇討ちで戦いこの河原でともに死んだと書かれています。しかし、徒然草第115段の「宿河原という所にて」は、神奈川県川崎市の多摩川べりとの解釈もあります。府道を越えると西豊川町となり、『西国街道』は5.5kmで茨木市域を終えます。

亀岡街道道標

3　市内の主要な『旧街道』

茨木市域には『旧街道』が18路線ありました。そのなかでも主要な街道としては、『西国街道』のほかに『亀岡街道・茨木街道・高槻街道・中春日街道』をあげることができます。これらは明治９年の太政官達により道路の種類が制定されたときに、『西国街道』は「国道」に、そのほかの４本は「県道」となり、残る13本は「里道（りどう）」とされました。

①亀岡街道

大阪高麗橋を起点に亀岡市に至る道路で、市内では宇野辺２丁目の貨物線際から始まり、府道を渡り旧街道の雰囲気の残る集落内を北上します。宇野辺１丁目３番で『高槻街道』と分岐します。ここに「道標」が残り高槻街道、亀岡街道と記されています。亀岡街道から外れて右手に少しゆくと「道標」があり、「右・たんば・妙見」と書かれています。モノレール「宇野辺駅」下で「中央環状線」を渡り下穂積２丁目の穂積小学校東側から水路に沿って進むと右手にマイカルの広告塔が見えますが田圃も残っています。

名神下を抜け郡３～５丁目に入ると道幅も狭く塀や土蔵・家並に歴史が感じられます。郡４丁目で『茨木街道』と合流し、「国道171」号の中河原交差点からは「府道」を北上し、中河原・東福井１丁目・泉原・上音羽を経て亀岡市に至ります。

②茨木街道

この街道は、『西国街道』の郡山本陣前から分岐し、起点の宿川原町１番

には『道標』が残ります。郡３丁目と上穂積４丁目の間は『亀岡街道』と重複し、府道の「上穂東町交差点」を東へ進み茨木工業高校の西端から斜めの道は「倍賀池」の堤防でした。

「倍賀の宮さん」で親しまれる春日神社にある「石灯籠」は鎌倉時代のもので国の重要文化財に指定されています。春日商店街は旧街道に面しており、ＪＲガード下で「中央通り」に入り、高橋で『高槻街道』と合流します。ここに大きな『道標』があり、左大阪・高麗橋元標まで四里二十四丁拾間と印され、明治時代に大阪府が建てたものです。「高橋」が架かる元茨木川は、上流の田中町で安威川に接続されて廃川になったもので、堤防が切下げられましたが元の高さは茨木神社横に名残があり、「男女共生センター」前から「高橋」へは急な坂道で、橋名の由来もここにあるようです。

元町を経て本町通りに入ると本町６番角に『道標』が残っており、「右京八幡」とあり、枚方街道を経て京都に通じるので「京口道標」と名付けられていました。ここから東進し阪急ガード下を通り府道を経て白川１丁目から高槻市に続きます。

③高槻街道

宇野辺一丁目で『亀岡街道』から分かれ東進します。府道とＪＲを越え、東洋製缶前から「中央環状線」を渡ると奈良町に入ります。中条小学校前を北進して中条公民館前で『山田街道』と合流し東に折れ、中央公民館東側から「高橋」で『茨木街道』へと合流します。茨木街道とは竹橋町１番と２番街区の間で分れ、北進し戸伏町から安威川を渡り橋の内二丁目を経て高槻市に至ります。

④中春日街道

中穂積２丁目西尾酒店前で『亀岡街道』から分かれ、春日丘高校前からＪＲガード下で『茨木街道』と合流する短い区間の街道です。この街道に

茨木街道（馬街道）

沿って「新池」と呼ばれた大きな池があり埋め立てられてイズミヤのある駅前ビルやバスターミナルのある西駅前広場が造られたのは昭和45年で「万国博」に備えた市街地改造事業によるものでした。

4　中心部の『旧街道』

次に、大手町・元町・本町など市内中心部を通る旧街道を歩いてみます。

①茨木街道

支線本町６番の『京口道標』のある『茨木街道』から分岐し、本町通りを北進し片桐町に入り、上泉町の中尾酒造前からＪＲの通称丸またをくぐりますが、この間は城下町の町並みの面影を残すところもあります。

街道は三咲町から国道171号を渡り西河原北町・十日市町から安威の集落に入り桑原で『妙見街道』につながります。

清坂街道

②枝切街道

大手町 12 番の柏木サイクル店の横を南進すると新庄町 9 番の茨木高校横門前には「兵枡（ひょうます）」と呼ばれる長方形の広場があります。これは茨木城有事の際の武士たちの集合場所だったのです。そのすぐ左手に「茨木童子貌見橋碑（すがたみばし）」があり、民話「茨木童子」の舞台で鬼のような顔を映した小川のあったところです。ここから街道は島方向に南進します。

『枝切街道』は河内と摂津を結び、東大阪小坂から始まり寝屋川市仁和寺で淀川を渡り、摂津市鳥飼下を経て宮島 1 丁目・島 1 丁目から茨木市内に入り、亀岡や妙見宮に通じる距離の長い街道という説もあり、『枝切街道』は『茨木街道支線』とも重複して北進していたのかもしれません。

③馬街道

地名が付く街道名が多いなかで珍しく「馬」が登場します。淀川の唐崎浜（高槻市）へ大阪や京都から物資が陸揚げされ、馬の背に荷物を積んで茨木の商家へ運ばれた時代があったことから名付けられたものです。

起点は『茨木街道』と『高槻街道』の『京口道標』（本町 6 番角）から始まり、竹橋町方向に東進し阪急ガードをくぐって斜めに折れ、府道を進み中津町の陣内外科角を斜めに入り寺田町を経て五十鈴町 1 番に至ります。ここまでは『茨木街道』のルートで『馬街道』の起点はここ五十鈴町から始まるとする説もあります。『京口道標』の本町 6 番から五十鈴町 1 番の間は『茨木街道』と『馬街道』とが重複していたとも考えられます。

『馬街道』は南進して「溝咋（みぞくい）神社」の鳥居前を通りますので、この神社へは是非とも立ち寄りましょう。我が国初代天皇の神武天皇の正妃であった

「五十鈴媛」を祀っているという説明板があります。街道は、星見町から府道の育英橋を渡り高槻市に入ります。

妙見街道分岐

④山田街道

豊中市上新田に始まり吹田市山田を経て下穂積２丁目で茨木市域に入ります。松ケ本保育所前からＪＲガード下をくぐり、中条公民館前で『高槻街道』と合流します。

5　山地部の『旧街道』

①清坂街道

上福井（福井７丁目）から府道忍頂寺福井線に入り、七曲がりと呼ばれた坂道を登りサニータウン入口を通り、大岩の国見峠に着きます。ここはかって旅籠もあったところですが、浄瑠璃で知られる「おさんと茂平」が駆け落ちをして心中をした土地と伝えられており、題目塔（供養塔）が山手台公園に移設されています。北進し忍頂寺を経て下音羽から清坂を経て亀岡市東別院に向かいます。

なお、この街道は『亀岡街道』と呼ばれていた時期があります。

②妙見街道

能勢妙見宮の参拝道で、『西国街道』の高槻市郡家から分岐し長ケ橋で『茨木支線』を合流し、桑原から山手台四丁目とゴルフ場の間を通り山手台７丁目で『清坂街道』と合流します。大岩から千堤寺方面に分かれ、泉原で『亀岡街道』に合流して豊能町に至ります。

6　残る『道標』

茨木市教育委員会の作成した「わがまち茨木・道標編」(昭和61年刊)によると、市内に残る『道標』の基数は87基にのぼります。設置年代不明のものが大半を占めますが、江戸時代であることが判っているのが14基あります。最も古いのは三咲町２－18にある道標(写真)で寛政９年(1797)のもので、「右大坂　左丹波」とあります。

また、案内先に寺院神社名が多いことは、街道が「信仰の道」として往来が盛んな時期があったことによるのでしょう。

☆現地調査・茨木まちづくりネットワークまちづくり部会

“おさん茂平” 恋道中碑

東福井３丁目で「旧清坂街道」(現・府道忍頂寺・福井線)に入り、大岩で集落内の道を北進すると「国見峠」です。

浄瑠璃で知られる『おさん茂平』はこの国見峠で“心中”をし、供養のために建てられたのが「題目碑」(写真)で「南無妙法蓮華経」と書かれています。

山手台中央公園にある市の案内板には『大阪小町とうたわれた美人で京都の商家に嫁いだ「おさん」は、丹波から奉公人としてきた美男子の「茂平」にすっかり身も心もうばわれた。当時、姦通すれば引き廻し罪という重罪に問われた。これを逃れるために二人は相いだき心中したという伝説の地である。』とおさん茂平の恋道中を記しています。

地元に残る民話

下男の茂平は美人の女中と夫婦になる約束をしていましたが、おさんの主人が色好みで女中に思いを寄せていることを、おさんも茂平も気づいていました。

ある夜、おさんは確かめようと女中の寝間に、茂平もまた同じ疑いをもち部屋に入りました。そこに主人も来て、怒り狂った主人はおさんと茂平を不義密通で訴え、二人は逃れてこの地で心中をした、と伝えられています。

この物語りは実際に京都で起きた事件を、井原西鶴や近松門左衛門が戯曲化したものだと言われ、井原西鶴は「好色五人女」第三話で、京都烏丸の表具師の妻おさんと手代茂兵衛とが姦通し、天和３年(1683)洛中引き回しの上、打ち首になったとしている。

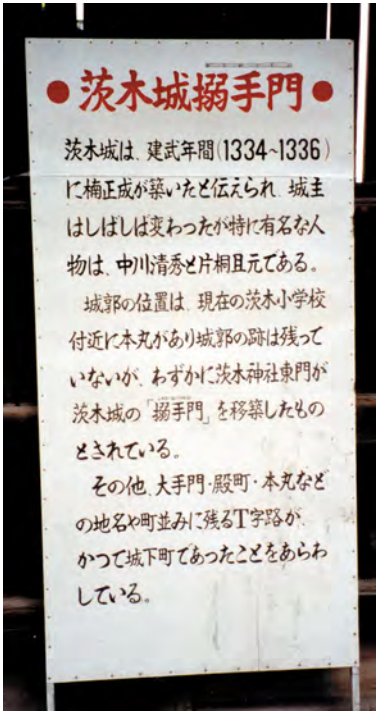
【題目碑・供養塔】

現在、題目碑が建っているのは「山手台中央公園」の片隅です。阪急バス「サニータウン」行き、幼稚園前下車(山手台小学校への入り口)。隣に「初田１，２号墳」

歴史のかいわい

池田博保

（1）元町かいわい



魚神（うおしん）を右に見て、元町の阪急本通商店街を東から西に進むと茨木神社東参道に出る。門をくぐると、左の看板がある。

大坂夏の陣で、豊臣氏が滅んだあと、徳川氏は、茨木を天領（幕府直轄地・大阪城代支配）にして、茨木城は廃城した。

茨木城の門は、茨木神社東門、妙徳寺（たちばな保育園）表門、大和小泉の慈光院山門（茨木門）として今も残されている。

大和小泉は片桐氏の所領で、慈光院は、且元の弟貞隆の子、片桐貞昌（片桐石州・石州流茶道の祖）が父の菩提寺として建立したもの。

慈光院の山門の「茨木門」は、茨木小学校の正門北に復元品がある。

中川清秀は、豊臣秀吉と柴田勝家が戦った琵琶湖北岸賤ヶ岳（しずがたけ）の戦いで戦死し、梅林寺に菩提が弔われている。

片桐且元は、賤ヶ岳七本槍の一人として、若年の頃から豊臣秀吉に仕え、やがて家老となるが、秀吉死去ののち、遺児秀頼の側近たちから遠ざけられる。明治の文豪、坪内逍遥の『桐一葉』に描かれている。

片桐町の地名にもなっている。

茨木小学校の正門の文字は、中川清秀の妹婿、古田佐助織部（武人で茶人）の織部焼きで作られている。上泉町には、古田佐助織部の屋敷があって、佐助屋敷の地名が残っていた。上泉町は古い町を偲ばせる風景がある。上泉町かいわいでは、茨木川から水をとって酒づくり・茶道が盛んだった。

茨木神社は、茨木村、中条村などの氏神として古くから崇敬されてきた。元は宮元町にあったが、楠木正成が茨木城を築いたころ、現在地に移された。

茨木神社の本殿北側に、式内社「天石門別神社（あまのいわとわけじんじゃ）」がある（式内社は『延喜式神名帳』に記載されている神社。1000年以上の古社。市内に10社・13座）。

織田信長が神社寺院を多く焼却したとき、焼却を避けるため、信長の信奉する牛頭天王社を表に、天岩戸別神社を奥宮にした。

茨木神社敷地の最北端に、「黒井の清水」の石碑がある。

茨木は水がおいしい所で、茶道や酒作りが盛んだった。豊臣秀吉が鷹狩の途中、茨木城に立ち寄って、出されたお茶が美味しかったので、しばしば大阪城に茨木の「黒井の清水」を運ばせて、茶の湯を楽しんだ故事がある。その故事にちなんで、2001年から毎年10月に茨木神社で「黒井の清水大茶会」が開かれる。

大手町は、茨木城の総門（正門・大手門）があったことから町名になった。

新庄町に、兵桝（ひょうます）、茨木童子睨見橋跡（いばらきどうじすがたみばし）がある。兵桝は、城に変事があったとき、ここに集合して人員点呼をした場所。道が広くなっている（119ページ参照）。

茨木童子睨見橋跡

祖先の文化遺産として「茨木童子」の民話が語り伝えられてきた。

茨木童子は、茨木市以外に、尼崎市富松、新潟県栃尾市軽井沢にも伝承が残されている。

新庄町の「茨木童子睨見橋跡」の石碑の近くに、大正初年頃まで、櫛塚があった。今は昔から続いた「鬼床」という屋号の床屋はない。

（付）【茨木の城】

茨木には、茨木城、太田城、耳原城（砦）、福井城、郡山城、穂積城（砦）、目垣城、沢良宜城、水尾城、三宅城、安威城、安威砦、佐保城、佐保栗栖山砦、泉原城、宿久城、清水城、西河原砦、総持寺砦、池上砦の20の城があった（わがまち茨木・城郭編）。

【城下町から在郷町へ】

茨木が、城下町から在郷町に変わっていった様子を『茨木の歴史』には「城下町から在郷町へ」として次のように紹介してある。

① 白井河原の合戦（1571年）で勝った荒木村重は茨木城を攻略し中川清秀に城を預けた。茨木城は、徳川政権になって廃城。

② 江戸時代になって、譜代大名の永井氏（高槻城主）は京都所司代・大坂町奉行と連携して京坂間の支配にあたった。

③ 京・大坂を結ぶ淀川沿いに、富田・高槻・芥川・吹田・枚方などの町場や在郷町があり、茨木は、河内・摂津の木綿や菜種などの商品を加工

する工業地として、農作物の商品化を進める条件が揃っていた。こうして、城下町でなくなった茨木は、近郊の村々で生産された商品の加工・集散の中心となる在郷町に変わっていった。

江戸時代の庶民は、神社の祭礼など行事に参加してそれにうち興じるのが娯楽の中心だった。伊勢講などを組んで、参詣旅行をしたり、西国33箇所の巡礼が行われた。

茨木城の矢倉門を移築したと伝えられる大和小泉市
慈光院の山門（茨木門）：茨木神社蔵

（２）ＪＲ茨木駅かいわい

1884年（明治９年）に京都・大阪間にできた国鉄の茨木停車場は、1970年（昭和45年）、日本万国博覧会を契機に、快速電車停車駅となり、周辺の環境も一変した。

ＪＲ茨木駅前ビル（イズミヤ・大和銀行）は新池という池だった。

エキスポロード（ＪＲ茨木駅から万博公園の間）は、現在のバス道路とは違うが、昭和18年頃まで５～６人乗りの馬車、昭和18年～23年まで木炭バスが走っていた。

松ケ本町の元専売公社跡地にはマイカル茨木が出来てＪＲに沿って専用歩道ができている。松ケ本公園あたりには昔春日牧場があった。マイカルの中に市立穂積図書館や、近くに穂積コミュニティーセンターがある。温泉もある。

穂積コミュニティーセンターは下穂積にある。穂積は、「穂を積む」が語源で、農耕に従事する民。穂積氏が統領で、645年の大化改新頃は郡内最大の氏族だった。1650年頃、上穂積（穂積）・中穂積（久定）・下穂積（上殿）に分かれた（「わがまち茨木・地名編」）。

中穂積春日神社に穂積城があった模様で、説明看板があり、城の堀などの地名が残っていた。

平安時代の初めの『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』には、

島下郡（茨木地域）に、新屋・宿久・安威・穂積の４郷があり、穂積郷には、上穂積・中穂積・下穂積・奈良・沢良宜東・沢良宜西・沢良宜浜・水尾・内瀬・真砂の地域があると書かれている。

茨木駅の北側、現春日（かすが）は倍賀（へか）という地名だった。昔倍賀寺があって保健医療センター付近は倍賀寺の小字名だった。春日5丁目の春日神社には、鎌倉中期の石灯篭（国の重要文化財）がある。

（3）畑田（はたけだ）かいわい

中央図書館玄関（図書館友の会「萠」（もえ）機関紙に使われている図）

ＪＲ茨木駅・阪急茨木市駅からバスが走っているが、歩けば30分の畑田（はたけだ）町に茨木市立中央図書館がある（名神茨木インター東南300m）。中央図書館には富士正晴記念館が併設されている。

茨木市の図書館は、中央の他、４つの分館、７つの分室、移動図書館もあって、市民１人当たりの貸出し数は全国のトップクラス。

絵画の貸出し、予約制度の充実など、他市に比べて市民の文化レベルを高める施設として充実していると言われる。自宅に近い分館で予約すれば、中央図書館の蔵書も入手できる。自宅のパソコンで図書館蔵書が検索できる仕組みも出来ている。中央図書館の北隣には、平成16年オープン予定の、生涯学習中核施設、新しい生涯学習センター建設が進められている。

平成15年１月開館予定の畑田コミュニティーセンター（畑田小学校敷地内）も建設されている。

（4）耳原（みのはら）かいわい

名神高速道路、茨木インター北１キロ。

耳原（みのはら）村誌には「原野を開拓して耕作した人・耳麻呂長者の耳と豊葦原の

原から命名された」と書かれている。帝人大阪研究センターにある耳原古墳（６世紀後半）、鼻摺古墳など古い古墳があり、豊かな歴史の地域である。

茨木川（佐保川）と勝尾寺川が合流する地点に旧西国街道にかかる幣久良橋がある。ここは、昔「白井河原の合戦」があった所。

1571年、天下布武を目指す織田信長方、荒木村重・中川清秀が、足利義昭方、和田惟政・茨木佐渡守重朝を破り、摂津、高槻・茨木の勢力交代が行われた（114ページ参照）。

標高49メートルの幣久良山と耳原大池一帯は耳原公園になっている。市役所周辺の市街地を「人のゾーン」とすれば、この辺りは「緑のゾーン」であろう。四季折々の自然が楽しめて、地域の人達は喜んでいる。早朝、遠い所から車でやってきて、池のまわりを散歩する人もいる。幣久良山を登ると、大正天皇が軍事演習を視察された記念の碑がたっている。横に、「この地は防ぎ守るのに便利な要害の場所…」の碑もある。

幣久良橋を旧西国街道沿いに東に進んで往時の街道筋の様子を偲んでいると、式内社阿為神社御旅所（祭礼のとき、御輿を一時入れておく仮の建物）、元幣久良神社に出る。そこをさらに東に進むと、太田遺蹟、太田廃寺（７世紀）、太田城、太田茶臼山古墳などのある太田に出て、高槻に到る。

（５）太田かいわい

太田一里塚の榎

「太田」は、大田と書いたり、おおたと言った時期もあるが、江戸時代から太田に統一されている。広大な田圃ということで、皇室領地の屯田に所属する耕作部民としての大田部を統率する氏族が藤原鎌足の一族、中臣太田連であった。

継体天皇陵（太田茶臼山古墳）

宮内庁が「継体天皇陵」として管理しているが、学問上、高槻市今城塚古墳（太田茶臼山古墳の北東1キロ）が継体天皇の御陵だと言われている。継体天皇（507～531年在位）は第26代天皇で、『日本書紀』によると、25代武烈天皇に皇位継承者がいなかったので、15代応神天皇の５世の孫として越前から迎えられた（114ページ参照）。

太田城址

茨木城より200年余り前の平安時代末期に太田太郎頼基が築いた城（城というより砦）。太田太郎頼基は、多田源氏の統領で、頼朝に追われて西国に逃げる源義経にここで挑んで破れたという記録がある。太田町内の道路は、Ｔ字路（三叉路）が折れ続いている。一戸一戸の家は、古風な門や格子の玄関など、いかにも城下町を感じさせる。旧地名にも、城の口、城の前などがある。

太田一里塚の榎木

（6）総持寺かいわい

阪急総持寺駅のすぐ近くに、小学校・コミュニティセンターと一体になっている庄栄図書館がある。

西国22番札所の総持寺の裏手には、尼寺の薬王寺などの寺社がある。126号線を北へ進み、171号線と交叉する少し右に、磯良神社（通称疣水神社）。171号線を越えると、西河原の新屋神社に出る。福井・宿久庄の新屋坐天照御魂神社とも、茨木に13か所ある式内社。式内社は、927年（延喜５年）に作られた律令の施行細則「延喜式」に載っている神社。平安初期に存在していた神社で1000年以上の歴史を持つ神社。疣水神社も昔は、西河原の新屋神社の境内にあったらしい。西河原公園の南、神社の500メートル南・西河原2丁目に新屋神社の神燈台らしい燈篭がある。

総持寺の裏門より

（7）郡（こおり）・宿川原（しゅくがわら）かいわい

西穂積の弁天さんと茨木カンツリー倶楽部の間の地蔵ケ池ジョギングコースをあけぼの学園から30分歩くと、郡山団地に出る。

郡山団地から右手（東側）は、新郡山、郡山、郡（こおり）、上郡とコオリの地名が多い。奈良時代、三島地域は島上郡・島下郡とされた。郡は、島下郡の役所が置かれていた場所のようである。役所跡は名神高速道路の下に眠ってしまった可能性がある。島上郡の役所跡は、高槻市で整備保存されている。

郡山団地を北へ行くと、171号線。手前の旧西国街道を左折すると、椿の本陣。また旧西国街道をしばらく行くと徒然草に出てくる「ぼろ塚」。左に、豊川の春日神社がある。茨木には、春日神社が、９社ある。清水・銭原・豊川・西穂積・春日５丁目・中穂積・下穂積・天王５丁目。藤原氏の荘園だった地域に、藤原氏の氏神・奈良の春日大社を勧請（かんじょう）（霊を移して祀ること）したため。

地蔵ケ池より郡山団地を望む

（８）福井（ふくい）・宿久庄（しゅくのしょう）かいわい

福井から産出される米は上質で、古来酒米とされてきた。米と水に恵まれた茨木は、江戸時代初期、富田、池田と共に、摂津名酒の産地として

知られたが、伊丹・灘などとの競争にやぶれて全国市場から撤退した。

由緒のある式内社新屋坐天照御魂神社と真言宗真龍寺は、明治維新まで神仏習合で、神社の祭礼は真龍寺の僧侶がしていて、薬師如来や十二神将像は新屋神社にあった。

4世紀頃の茨木の支配者が葬られたとされる紫金山古墳。支配していた茨木の全貌が見渡せるように後継者がここに葬ったようだ。

太田、耳原、安威、福井は、東西一直線に並んでいる。これらの地域には100基の古墳がある。古墳を作るには、多くの労力がいる。民衆を労役に駆り立てる力を持った豪族が存在したということ。

宿久庄には川端康成が少年時代を過ごした屋敷跡がある。そこから西、箕面市に近い所に川端康成が通った豊川小学校がある。

（9）安威川（あいがわ）を歩く

車作（くるまづくり）

天智天皇の頃（7世紀）、ここで御所車を作ったので車作の地名が出来た。18世紀初め、庄屋の畑中権内が開いて水田化に成功した深山水路（権内水路）がある（138ページ参照）。

安威の里と藤原鎌足

安威の里は藤原鎌足にゆかりが深い。

鎌足古廟と言い伝えられる「大職冠神社」。

藤原氏の祖神天児屋根命（あまのこやねのみこと）を主神とする、式内社「阿為神社」。

鎌足の長子僧定慧が開基の大念寺。

大化の改新の前年、鎌足が神官最高位の神祇伯を辞退し隠遁した地（蘇我氏征討、大化の改新の秘策をこの地で練ったと思われる）。

藤原氏の一族、中臣藍連（なかとみのあいのむらじ）が住んでいた地。鎌足は死後、安威に葬られたが、鎌足の長子僧定慧は、大和に移ってから、大和の多武峰（とうのみね）に移そうと使いを出す。安威の村人たちは、使者の願いを拒否し、交渉の結果、遺骸の一部、頭だけを多武峰に移した。後年、多武峰が有名になり、談山神社に遺骨があるように言われ、茨木の墓は「動塚」「胴塚」と呼ばれるようになった。大念寺の竹は、先端だけ枯れるようになったという伝承がある。大職冠神社には、明治時代まで、藤原氏の一族、九条家が鎌足忌にお祭りに来ていたそうである。高槻の阿武山古墳が真の鎌足公の古廟との説もあり、茨木には「鎌足の墓争い」という民話がある（「わがまち茨木；民話・伝説編」）。

桑原（くわのはら）

桑原の初田遺蹟から、縄文文化の土器・石鏃が出土している（山手台中央公園にある）。

地福寺は藤原鎌足の頃の開基。

村落の東、東洋紡糸株式会社は、明治12年桑原紡績所として創業。

水力を動力源とする小規模なものだったが、当時としては新式の優れた技術を持っていて、この地方の洋式機械工場の花形だった。

村落の西一帯は、山手台・サニータウン。現代的なニュータウンに、「おさん・茂平恋道中碑」の古風な碑がある（121ページ参照）。

一ノ堰（いちのせき）・五社井堰（ごしゃのいせき）（東安威２丁目）

安威川は、亀岡市を源にして、上流では竜泉峡などの美しい渓谷を作っているが、平野部・中流では、農業を支える用水源。一ノ堰・五社井堰は、安威川右岸の１１か村と左岸７か村の田へ水を引くための堰（せき）。茨木は、豊かな水に恵まれた地域だったが、農業地では水の争いも多々あったが、田畑が住宅に変って、堰の価値は薄れたようだ。

茨木川

安威川は、国道171号線と交叉して三咲町で茨木川と合流する。茨木川は佐保川を元にし、勝尾寺川も合流しているが、川の氾濫で困っていたので、1949（昭和24）年、廃川して元茨木川緑地公園（桜の名所）に整備された。

五十鈴町

阪急茨木市駅の東1キロ、先鉾橋がかかっている。その右岸を土手沿いに300メートル歩くと、式内社・溝咋神社がある。日本の初代天皇・神武天皇の正妃五十鈴媛らを祀った古社。

神話の世界だが、祖父の三島溝咋耳命（みしまみぞくいみみのみこと）は、三島地域の水利権を支配する豪族だったようだ。五十鈴媛にちなんで町名は五十鈴町。五十鈴媛の名は、ヒメタタライスズヒメ。タタラは、金属鋳造用語。東奈良の銅鐸鋳型とも何らかの関りがありそうだ。茨木童子の民話も関わりがあるとする説もある。

２代綏靖（すいぜい）天皇の后は五十鈴媛の妹、依姫（よりひめ）。

目垣（めがき）

浄土真宗中興の祖蓮如上人が北摂地域布教の本拠地とした仏照寺。仏照寺の前に、大和朝廷と関りのあった土豪溝杭氏の城館だったという目垣城の城址碑がある。

市の南部には、昔は海が入りこんでいたようで、島、水尾、真砂、内瀬、沢良宜など水にゆかりのある地名が多い。縄文時代の頃は、大阪平野の大部分は、河地湾で、今から1500年前（５世紀）頃、次第に水が引いて、陸地化していったようだ。

産業廃棄物・家庭のごみを効率的に処理する茨木市環境衛生センターを左に、大阪府中央卸売市場を右に見て、安威川は摂津市に入り、神崎川と合流し、大阪湾にそそぐ。

“ゴンゴン”ファクトリー

炭窯の建設経緯と概要

「大阪府三島郡見山村大字車作（くるまづくり）」と呼ばれた頃の車作は数多くの家で炭焼きが行われ、車作の『主産業』・生活基盤として営なまれていました。この地は深山（みやま）と呼ばれるほど山深く、そこには炭に適した樫の木が密生していました。

当時は、一つの炭窯を数人が交代しながら炭を焼いていました。次の人がその窯があくのを待ち、また、次の人は山に入り炭木の樫の木や焚き付けの柴を用意したり、炭を出した人は炭を選別し商品価値を高め、深山炭（みやまずみ）として行商し生活を支えていました。

しかし、近年、生活様式の変化により炭の需要が減少し、これにあわせるように生活の基盤も地域内から地域外へと変わり、会社勤めによって、安定した収入を得るようになり、炭焼きも段々と忘れられてきました。

ところが、最近になり炭の効用が見直されてきたのをきっかけに、庄屋「畑中権内」による深山水路の遺徳を称え、村の主産業であった炭焼きを再生するために、「村おこし」「学習の場」として平成12年、有志の手でゴンゴンファクトリーがつくられました。今、ここで炭窯の建設から切り炭の製造までを手がけております。

地権者、資材・機材提供者、建設製造手法伝承者、継承者など延べ日数55日、延べ人員225人の力をもって完成しました。

施設名に関しては、地域の住民に公募をしまして、「畑中権内」さんに結びつく権内の権をもじりカタカナの“ゴンゴン”とし、物事の創出を意味する、地区名の車作の作をもじり、製造するの「造る」“ファクトリー”とし、“ゴンゴン”ファクトリーと名付けました。

炭焼き窯の名称は、権内さんそのものの“権内窯”と名付けました。施設の概要といたしましては、

“ゴンゴン”ファクトリー敷地面積　1000㎡
炭焼き窯　1基
炭の生産能力　1回の窯につき200kg

暖を取る、語らいを持つ、自然に身をゆだねる、体験学習ができる等の憩いの施設が4カ所あります。

以上が、炭窯の建設経緯と概要です。大字車作は、自然がいっぱいの緑豊かな、水・空気がおいしいところです。阪急茨木市駅から阪急バスで30分で到着します。一度、ハイキングに来てください。お待ちしております。ただし、環境の保全、美化には注意してください。

大字車作　ゴンゴンファクトリー
連絡先：大字車作331番地
　　宇山　保士／TEL072-649-3663
阪急バス：車作線車作高橋下車　　北へ徒歩 500ｍ

権内水路

車作集落の中を「深山水路」とよぶ水路が走っている。今から約290年昔の宝永年間、村の庄屋であった畑中権内が、安威川の支流である下音羽川から水を引くために独力で作った水路だという。

これについては、忍頂寺小学校の教職員と児童が「近畿僻地研究大会」のためにつくったオペラ「畑中権内」が、詳しくおもしろいので、忍頂寺小学校の許可をいただき、そのシナリオを以下に紹介させていただきます。

左　権内水路取水口の碑
下　権内水路を取材するスタッフ

権内水路
〔所在地〕大字車作
阪急バス　車作線車作高橋下車　　北へ徒歩　700ｍ

劇「畑中権内（はたなかごんない）」

作　：忍頂寺小学校教職員
　　忍頂寺小学校児童
　　作曲：平島　勉

第一幕　車作村の田

ナレーター　【ここは、江戸時代後期の車作村です。今は実りの秋だというのに車作村は少しの収穫しかありません。】

村人１　「あああ、いつになったらおいしいご飯が食べられるようになるねんやろ。」

村人２　「ほんまほんま…。もう何日も白いご飯を食べてへんなー。」

村人３　「どないかして畑の作物がとれるようにならへんもんかいなー。」

村人４　「家では子どもらが『はらへった。はらへったー』いうて毎日毎日、泣いてばっかりやー。」

村人５　「たったのこれだけやったら何日分もあらへんなあ。」

（権内、腕組みをしてゆっくり登場）

村人１　「あ、庄屋はんや！」

村人２　「庄屋はん、いつもお世話になっとります。」

権内　「やあ、皆さん。ごくろうさんでんな。あわの獲れ具合はどんなもんでっか。」

村人３　「さっぱりでんねん。これでは何日分あるかとぼやいとったところです。」

権内　「そうでっか…。えらいこっちゃなあ。」

村人４　「庄屋はん。なんかええ方法はないもんでっしゃろか。」

権内　「あるにはあるけど…。」

村人５　「え？　あるんでっか？　あるんやったら教えておくんなはれ。」

（権内、腕組みをして考え込んでいる。 村人たち、そんな権内をけげんそうな顔でのぞきこみながら去っていく）

歌①「水さえあれば」

ナレーター 【その晩、権内は村人に下音羽川の水を引いて水路を造ることを話したところ村人たちは大賛成してくれました】

第２幕 提灯測量

ナレーター 【権内は、水路を決めるための方法を村人に話しました。提灯に灯をつけて山の中に並び、向かいの山から遠く眺めながら高い低いを合図するのです。これを「提灯測量」と言います。】

権内 「こんばんは、皆さん。ごくろうさんでんな。下音羽川の水を引いてくるには、ちゃあんと水が流れてくれるように、調べんとあきまへん。皆さん、かんたんなことやおまへんけど、よろしゅうたのんまっせ。」

村人１ 「へえへえ、わかってます。庄屋はん。」

村人２ 「今日は闇夜やさかい、真っ暗でちょうどええわ。うまいこといったらええな。」

村人３ 「よし、ほんならわてらは北の方へいきまっさ！」

村人４ 「ほなわてらは、竜王山の東の方へまわりまっさ。」

村人５ 「下音羽川の方から順番に、提灯に火いつけていくさかい、よろしゅうたのんまっせ。」

村人１～５「おう！ ほな、行くで！」

（村人達、提灯を下げて出発。）

歌②「ちょうちんそくりょう」１番

村人１ 「おっとっとっと…ふう、もうちょっとで足を滑らして落ちてしまうとこやった。危ない、危ない！」

村人２ 「こらあ思ったより大変でんなあ。」

村人３　「そうだんなあ。山ん中を、しかも真っ暗な中で歩くんやさかいなあ。」

村人４　「けど、うまくいけば、うちの村にも水が来て、米もできるようになるでなあ。」

村人５　「そうやそうや。うまいこといってほしいなあ。」

権内　　「おうい、ともさくさん、もちっと上や上や…」

（順番に提灯に火を入れながら、対岸の山から合図を送り場所が決まれば、草木でしるしをつけていく。）

権内　　「おう！　私が思うてたとおりや。やっぱり、水路を掘れば村に水を引いてくることができるんや。」

村人６　「さすが庄屋はん、これでわてらの村にも水がくるで。」

村人７　「ほんまよかったよかった。きっとうまくいくで。」

歌②「ちょうちんそくりょう」２番

ナレーター　【権内は高槻藩に、水路を掘るための願いを出しました。ところが高槻藩は、許さなかったのです。下音羽川の水を上流で横に取り入れることに、下流の人々が反対することを恐れたのです。】

第３幕　ひとりで水路を

（掘る権内）

権内　　「あああ、困ったことになってしもうた。おとの様はきっとゆるしてくれはると思うてたのになあ…。

そやけどここであきらめてしもうたのでは、車作村は今まで通りの貧しい村のままや。水路さえできたらきっと豊かな暮らしができるようになる。…

そうや！　わしがひとりで水路を掘ろう。村の人には迷惑はかけられへん。

何年かかるかわからんけど、村のためや。なんとしても水路を掘ったるで！。」

歌③「ひとりでも」

ナレーター【権内はひとりで掘ります。
硬い岩にであうとなかなか進みません。やっと掘ったところには、二つ割りにした竹を並べ、水の流れ具合を確かめます。
でき上がったところをしっくいで固め、見つからないように枯れ葉でかくしていきます。
今日も権内は、ひとりで掘ります。】

村人１　「わしらのために、庄屋はんが一生懸命水路を造ってくれてはる。」

村人２　「こらあ、思うてたよりえらいこっちゃなあ。わしらもやらなあかんのんとちがうやろか。」

村人３　「そうや、そうや。」

村人４　「庄屋はん、やっぱりわしらもやるで。」

権内　「そうか、やってくれるか。ありがたい！」

村人５　「庄屋はん、これ食べとくなはれ！」

権内　「おお、これはおいしそうや。ひとつもらうで。」

村人６　「庄屋はんのおかげで水路がだいぶんできてきたなあ。」

村人７　「もうちょっとや。みんなでがんばろうな。」

（効果音、舞台暗転）

（村人達、よろよろしながら逃げるように退場）

ナレーター【しかし、ついには高槻藩にわかってしまい、権内はつかまえられてしまいました】

（牢屋の中の権内）

権内　「みんな私ひとりでやったことです。村の人らに罪はありません。」

第４幕　村人の赦免運動

村人１「えらいこっちゃ。えらいこっちゃ。庄屋はんがつかまってしもうた。」

村人２「わしらのためにつかまってしもたんや。」

村人３「しかも庄屋はんは、自分ひとりでやったことやと言いなはってるらしい。」

村人４「わしらのことを思うて自分ひとりで罪を背負おうとなさってる。」

村人５「なんというやさしい方なんや。」

村人６「どないかして庄屋はんを助け出さなあかん。」

村人１「よっしゃ、みんなで庄屋はんを許しとくなはれ言うてたのみに行こうやないか。」

村人２「行こう！行こう！」

村人３「庄屋はんをかえせ」

（村人　口々に　「庄屋はんをかえせ！」）

村人４「庄屋はんをかえしてもらうまでは、わしらはここをうごかへんで。」

村人５「そやそや。」

（みんなで座り込んで腕組み　舞台暗転）

朝の車作村

村人Ａ「おい、お殿様は庄屋はんをゆるしてくれはったそうやで。」

村人Ｂ「ほんまか？　というと、水路を掘るお許しも出たんやろか。」

村人Ａ「うん、隣村の庄屋はんや、町奉行はんも、言うてくれはったみたいで、幕府も許したちゅうことや。」

村人Ｂ「へえすごいもんやな。みなで言うたら、何とかなるもんやなぁ。」

村人Ａ「せやけど、水の取り入れ口は、一升ますの大きさ。年貢は増やされる。命令が出たら、仕事にも出んならんちゅうこっちゃ。」

村人Ｂ　「せやけど、今までのこと思たら、夢のようなこっちゃで。水路がでけて、水が流れてくるんやさかいなあ。」

第５幕　水が来た！

村人１　「あ、あれは庄屋はんやおまへんか？」
村人２　「ほんまや庄屋はんや。」
村人３　「庄屋はん、お帰りやす。」
村人４　「わしらのために、ほんまにすんまへんでしたなあ。」
権内　「いやいや、みなのおかげで私はこうして無事にもどって来れたんや。こっちこそおおきに！」
村人５　「あたりまえのことでんがな。庄屋はんはわしらのために水路を掘ってくれはった。なんにも悪いことなんてしやはったわけやない。」
権内　「それよりほれ、こうやって、お許しももろうてきたで。これからは堂々と水路を掘ってもええねんで。」
村人６　「ほんまでっか。ほな、さっそく、残りの水路をほりまっせ！」
（村人口々に　「よっしゃあ、掘るで、掘るで」）
（みんなで作業）
村人１　「なあみんな、もうちょっとや。」
権内　「でけた！　みんな、やっとでけたで！」
村人達　「庄屋はん、おめでとうございます。
ほんで、ほんまにおおきに！」
権内　「うむ。さあ、水を流しまっせ！」
（下音羽川の取り入れ口から）
村人１　「おうい、水を流すぞう！」
（村人口々に「わああ、水や、水や、水がきたー！」）
歌④「水がきた」

ナレーター【こうして十数年の時間をかけて、深山水路は完成しました。
車作村でも米作りが始まりました。２・２ｋｍの水路は、車作の人たちによって受け継がれ、今も生活を支える大切な水として生かされています。
いのちの水、権内水路は今日も静かに流れています。】

歌④「水がきた」

歌①「みずさえあれば」

一、むかしむかしのことでした
まずしい村を　すくおうと
ごんないさんは　かんがえた
水さえあれば　水さえあれば

二、むかしむかしのことでした
むらびとたちの　くるしいくらし
ごんないさんは　かんがえた
水をひこう　水をひこう

歌②「ちょうちんそくりょう」

一、灯をもせ　灯をともせ
ちょうちん測量　はじめるぞ
わしらのむらを　すくうため
むこうの山まで　灯をともせ

二、灯がついた　灯がついた
ちょうちん測量　はじめるぞ

わしらのむらを　すくうため
むこうの山まで　灯がついた

歌③「ひとりでも」

一、みんなのくらしを　すくうため
なんとしてでも　水をひく
きょうもひとりで　土をほる

二、米さえできれば　水さえくれば
何年かかるか　わからんが
きょうもひとりで　いわをほる

歌④「水がきた」

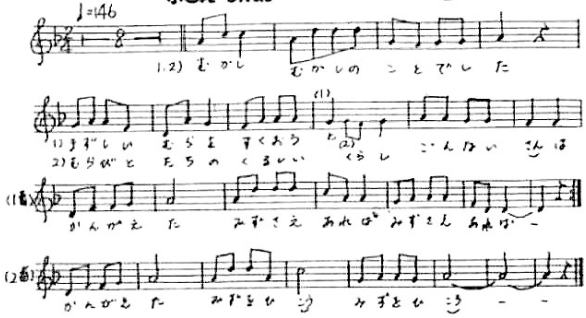
一、水がきた　水がきた
稲が育った　米とれた
水は命だ　命の水だ
さらさら流れる　深山の水路

二、水がきた　水がきた
やっとかなった　わしらの願い
水は命だ　命の水だ
きょうも流れる　深山の水路

劇『細中稚内』より

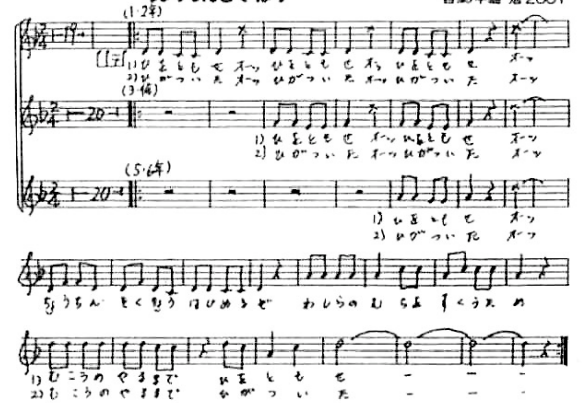
水さえ あれば

音楽/平島 勉 2001



劇『細中稚内』より

ちょうちんぞくりょう

音楽/平島 勉 2001

劇『細中稚内』劇中音楽（巻）

キリシタンロード

「車を利用するアクセス」

国道171号線の西河原西交叉点を北折れ～茨木亀岡線を北上～長ヶ橋～桑原橋を渡り西折れ～サニータウンいちょう並木（山手台３・４丁目）～突き当たりＴ字路を北折れ～国見峠緑地で忍頂寺福井線へ～更に２キロ北上し大岩で標識に従い西折れ～キリシタン遺物資料館～遺物が発見された中谷家など～西へ向かい府道余野茨木線へ～北辰中学三叉路を左折～上音

羽クラブで右折～磨崖仏～見山の郷～高雲寺。

（注）いちょう並木は直線の登りで約900メートルある。下から見上げる方が風情がある。秋、葉が黄色く染まる夕方がきれいで壮観である。

サニータウンのイチョウ並木

上左　紅葉前のイチョウ並木　　上右・下　紅葉のイチョウ並木

キリシタンロード

矢島恒子／九鬼昌子

江戸時代、高山右近が高槻城主だった頃（1573～1585年）、高槻周辺には18,000人ものキリスト教徒がいたという。当時、千提寺（せんだいじ）や下音羽は高槻藩の領地であり、このあたりから多くのキリシタン遺物が発見されている。

右近の明石国替えの前後から徳川幕府はキリスト教を禁教として厳しく取り締まった。信徒は仏教への改宗を迫られ、表向きは高雲寺の檀家となり、葬式も仏式で行ったという。しかし、隠れキリシタンとしてのもうひとつの信仰生活も根強く行われていた。天井裏や押入れにマリア像やキリスト像をまつり、深夜に祈祷を続け、山の尾根から夕日に祈り、春の断食や四旬節の断食も続けられていた。

まず、千提寺を訪ねて茨木市立キリシタン遺物史料館を確かめてみるといい。今、ここに館長はいない。前任者が亡くなってからは、遺物が発見された家の主婦たちが交代で代役を務めている。中谷早苗さんもその一人である。中谷さんたちに案内を乞い、遺物の発見された家々を訪ねるといい。

*千提寺の東家…ザビエル像やキリスト磔の像などが発見された家
*千提寺の中谷孝家…苦行の鞭縄などが発見された家
*下音羽地蔵橋の原田家…マリア十五玄義図などが発見された家
*下音羽の大神家…象牙彫りのキリスト磔の像などが発見された家

特に、中谷さんの家では楽しい体験ができる。まず、この奥さんは５年前から竹炭を焼いている。持ち山には竹林があり、原料には事欠かない。上手に竹を伐採すれば自宅の日当たりもよくなる。竹炭の燃料は里山の雑木が使えるし、これが里山の保全にもなる。それに竹炭は今ちょっとしたブームで現金収入も得られる。いいことずくめである。竹炭の副産物とし

て琥珀色の竹酢液もいい。糖尿病・肝機能障害・アトピー・肌荒れに効能がある。ついでにもうひとつ、中谷さんには蔓(つる)の作品もある。籠や一輪挿である。ムードがよく可愛い。

千提寺から、下音羽の高雲寺へまわってみたい。ここにはキリシタン墓碑が２基ある。大イチョウもある。この本の“見山の郷の名木”に詳しい。

千提寺、下音羽の高雲寺を巡ったら、最後は夕日を見計らって上音羽の磨崖仏を訪ねるといい。誰が何のために彫った仏なのか、謎めいている。

隠れキリシタンが彫ったという人もいる。多分、表向き仏教徒として山へ入る名目がこの磨崖仏だったのであろうか？　もしかすると磨崖仏の中にキリストゆかりの何かが密かに安置されているのかもしれない。ここからの夕日の眺めは信心深いキリシタンの夕日の祈りを感じる人もいるかもしれない。また、五木寛之の「隠れ念仏」や「隠し念仏」の労作を思い出す人もいよう。

人間の信ずる心のありようを考えさせられるキリシタンロードである。

茨木市立キリシタン遺物史料館
〔所在地〕茨木市大字千提寺 262 ／ TEL(072)649-3443
阪急バス 忍頂寺行　千提寺口下車　　徒歩　東へ900m
開館時間 ： 午前９時30分～午後５時（月曜日は正午まで）
休館日 ： 毎週火曜日／国民の祝日／年末・年始
入館料 ： 無 料

磨崖仏（まがいぶつ）

桐生敏明

写真をご覧になられて、大岩壁に線刻された雄大な磨崖仏を想像されると困る。高さは、ほぼ２～３メートル程度か、幅は６メートル程度の自然石に線刻されたもの。立て札によれば、能勢妙見街道沿いにある磨崖仏は三十数体の地蔵仏が彫られ、上段には桃山時代の「甲戌天正二年十一月十五日」の刻名があり、「これは、逆修仏とよばれ、村人たちが現世があまりにも厳しいので、来世に望みを託し生きている間に自分自身の姿を石に彫り込んだもの」だという。

また一説によれば、隠れキリシタンが、密かにクルスを分からないように彫り込んだものだといい、陽の当たり方によって十字が見えるという。しかし、どこからどう見ても十字やクルス様のものは見えない。

ただ細部でなく、全体を見ると、横一列の地蔵のまわりが四角い線彫りによって囲われており、上の一体の地蔵とがあわさってクルスに見えないことはない。下の部分は、小灌木で隠されているが、多分何も彫られていなかったように思うのだが……

ただし、この磨崖仏クルス説には大きな落とし穴がある。

はっきりと天正二年十一月十五日と日付が彫り込まれていることが問題となる。なぜなら、この時代にはキリスト教が禁止されていないからだ。禁教令が初めて出されるのは、これから十三年後の天正十五年のことになり、しかもこの時期は、キリシタン大名高山右近がこの地の領主だった時代でもあり、到底、隠れキリシタンが彫ったものだということは考えられないからだ。年月日の読み違いということも、頭に甲戌（きのえいぬの年）とあるため、読み違い説も却下される。

あえて隠れキリシタンと結びつけるなら、過去につくられた磨崖仏に、クルスの形を読みとり、キリシタンたちが手を合わせていたと言えないこ

ともないだろう。

「大変じゃ、あの仏様を彫り込んだ岩にクルスが現れた。奇跡じゃ、奇跡が起こったのじゃ。皆の衆、ゼウス様はわしらを見捨てられたのではないぞ！あそこへ行けばゼウス様がおられるのじゃ」

こんなことが、この村の歴史の中で、密かにあったのかもしれない。

また、もう一つの可能性は、過去に彫られた磨崖仏の上に、禁教時代に入り新たな細工をした事実がないともいえない。

今となっては確かめるすべもないが、こんなことを考えながら、厳しかった時代に思いが向けられるのも、この郷の雰囲気がさせる技に違いない。

磨　崖　仏
〔所在地〕大字上音羽
阪急バス 忍頂寺行千提寺口で余野行に乗り換え、
倶楽部前下車／北東へ徒歩 500m

歴史トピックス

茨木の歴史をしのぶ

銘菓　石州

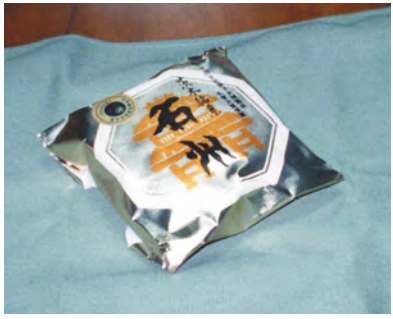
九鬼昌子

お店の名前と同じ銘菓『石州』は直径10㎝ほどあり、厚さは約3.5㎝、八角形をしておりその表は茨木城の楼門が浮き出ている。「このお菓子を作るにあたって、奈良の慈光院に名前を使ってよいかお伺いをして許可をいただきました」とおっしゃる店主、島津啓三さん。

慈光院に移築された茨木城の楼門

茨木市の歴史をご存知だろうか。茨木城主だった片桐且元、その甥が片桐石州。その石州が片桐家の精舎、慈光院を開基し、茨木城の楼門を茨木から慈光院に移築したのである。

かつて茨木城にあった楼門を見たくなり、奈良の慈光院を訪れた。目に入ってきた楼門は『石州』に浮き出た楼門とピッタリ!!慈光院でもこの『石州』はおみやげとして置かれている（夏期は注文のみ）。



茨木市から慈光院に行かれた方がおみやげに『石州』を買って帰った。後にこのお菓子が、茨木で作られていたことを知ってお店まで買いに来られたという話しを店主から聞いた。茨木の歴史の中での奈良の慈光院とのつながりと、それをもっと強くした『石

州』。そんな感がある。

店主の島津啓三さんは叔父さんの後を継いで38年になる。島津さんは、この『石州』を「現在のように店の看板商品にするには長い時間がかかっている。若い人達にも食べてほしいので、コーヒー、紅茶にも合うようにと、あんも甘さを抑えてまろやかさをだし、黄味あんと大納言小豆の二重あんにした。材料も吟味をして国産にこだわっている。販売を始めてもしばらくは売れない時期が続いたが、名物に育てるには時間がかかると気長に作り続けてきた」と振り返えられた。包装も楼門が透けて見えていて水分の蒸発を防ぐだけだったが、日持ちするように現在の形にし、今の『石州』になるには中身も外側も創意工夫が重ねられている。

この経験を生かして茨木の文化や名物を銘菓にしたいと、日々お菓子作りに精進されている。

菓匠　石州
茨木市春日１丁目12-30
TEL/FAX　072-623-2796

歴史トピックス

茨木最古のコンニャク屋

5代目社主・上田憲男氏に聞く

佐藤眞生

茨木で最古のコンニャク製造業といえば知る人ぞ知る伏見屋である。茨木で伏見屋というのは何か訳がありそうなので聞いてみた。するとこうである。

高槻の代官の次男で林鹿之助元吉という人物がいた。この元吉は唐崎の米屋米忠へ養子に出される。米忠の姓が上田だったので元吉は上田を名のることになった。元吉はやがて縁あって富田の平井家の次女もんと結婚する。この平井家が伏見屋というコンニャク屋であった。

高槻の富田に本照寺ができたとき、伏見屋は寺の精進料理に欠かせなかったコンニャクを、京都の伏見から麩屋・豆腐屋とともにやってきて、本照寺の門前で商いを始めた。その内、富田より商圏の広い問屋街の田中町へお店を移すが、明治24年に元吉は平井家から商いを引き継いだ。

コンニャクは、コンニャクイモを原料とするが、このイモは生育に3年から5年かかるといわれる。11月に収穫したイモを輪切りにして乾燥させ、粉末にしてから石灰を使って固め、コンニャクを作る。この製法の手作りが最

高品といわれる。伏見屋もこれを踏襲しているという。コンニャクは味の違いがわかりにくい食品であるが、歯ざわり・風味・香りなど個々にみると違いはある。伏見屋はそのわずかな違いを求め続けている。

豆屋源蔵

昔からコンニャクは塩でもみ洗いしてから茹でるといいといわれる。これは石灰の生臭みを取るためである。そして、コンニャクは「腸の砂払い」として重宝されてきた。コンニャクには体内で消化されない食物繊維・グルコマンナンが含まれ、これが腸の働きを活発にし排便を促すという。また、老廃物や癌細胞をつくる毒素を吸着しながら腸内を移動して排泄してくれるという。しかも、コンニャクは摂取エネルギーに殆ど影響しないためダイエットにもいいといわれている。

平成６年には、茨木で実験店舗「コンニャク・レストラン」"こんちきちん"を開業して注目を浴びたが、実験は一応終わった。実験の結果、この種の飲食店へのリピーターは、人口100万以上の都市でないと採算にのらないことがわかった。本格展開を求める声は強い。といっている内に、2002年８月13日、京都は木屋町二条下ル・京都ホテルのすぐ裏に新生こんちきちんが「豆屋源蔵」という名前でオープンした。

８月16日は京都の送り火、早速，妻と「豆屋源蔵」の床を予約した。木屋町御池を上がった東側、かつて「近江初」という茶屋旅装だった場所に目指すお店はあった。門口を入ると、鴨川に向かってトンネルのような廊下が続く。トントンと二段上がってしばらく渡ると正面に床がしつらえてある。比叡山と大文字山がやや左手に見える。まだ薄暮である。送り火の点火は午

レンガ造りのトンネル　まるまた

後８時、それまで冷たい生ビールで、京料理をいただく。本業がコンニャクと豆腐の伏見屋であれば、豆腐と味噌とゆばの京料理である。薄味で素材が生きている。器もいい。

聞けばこのお店、「鞍馬天狗」の大仏次郎、画家の山下清、日本研究のドナルド・キーン博士などが定宿にしていたという。木の香がただよい、壁も天井も板に趣きがある。

豆屋源蔵は三つの空間からできている。まずは、「源蔵茶屋」、10時から17時まで喫茶と豆腐・味噌・ゆばの販売の空間である。次に、「Genzo's Bar」、17時からミッドナイトまでバーである。そして、「豆屋源蔵」、10時から17時まで豆腐・味噌・ゆばの京料理が楽しめる。

茨木田中町の伏見屋本社を見学して、玄関を出てすぐ左にある明治５年のレンガ造りのトンネル・通称丸またをくぐると、そこは上泉の古い町並みである。そこから阪急茨木市駅までは15分ほど、京都へ出て豆屋源蔵を訪ねれば、今度は鴨川まで木のゆかしいトンネルが待っている。

（株）伏見屋
茨木市田中町 2-16　TEL：072-622-2316

豆屋源蔵
京都市中京区木屋町御池上ガル　TEL：075-253-1155

楽しい仲間
茨木の市民活動グループ
どこでもそうだが、茨木にも
さまざまな市民活動の
グループがある。多様なテーマに
自主的に自由に
取り組んでいる。
そういうグループを取り上げてみた。
もっとたくさんある筈だけれども、
とりあえず知り得た範囲で自己紹介を
してもらった。
自己実現を仲間と一緒にと思っている
人にとって、思いを同じくする
グループを探すお役に立てばという
趣旨から出た企画・編集は、
この本の企画・編集は、
「ふるさと茨木連帯」の会員が中心と
なっているが、
会員外のグループからも、
あるは個人的な参加も
ゆるやかに受け容れている。
楽しい仲間の終章に、
二〇〇二年の正会員と
準会員を一覧にした。
さらにこの本で紹介した
会員でないグループも加えた。

ふるさと茨木連帯

佐藤眞生

ふるさと茨木連帯は、茨木の市民活動グループの横のつながりで、「お互いに協力できることをしよう」、「みんなでできることがあればもっといいね」、というゆるやかな互恵組織である。

99年６月に茨木未来倶楽部が呼びかけ、10月２日に最初の集いを持った。その日一同に会したのは、（財）ＭＯＡ・市民文化の会・山彦クラブ・参玄会・まちづくりネットワーク・水と緑と人の調和を考える会・元茨木川のめだか・（社）慶徳会・自然保護研究会・未来倶楽部の10グループだった。ほかに欠席だけれども賛同していただいたグループが大正琴花林会・子供とおとなのための読み語りの会の２グループあった。

2002年10月、グループはケナフの会・アロアロ・バリアフリーコンサート企画・パソコンクラブ・虹の会・ユース100実行委員会・市民文化フォーラム・やまもも・健康道場燿康友和協会を含めて21になっている。

まあ、やってみようということで動き始めた。

最初に、公共の施設を市民活動の連合団体に開放し、市民団体連絡会を開設するよう市に要望した。これはみんな個別対応が原則故ダメという回答だった。

次は、やはり市に、市民活動支援センターの設置と、いわゆる市民活動の連合体の対応窓口の明示を要望した。これも却下された。

さらに、しつこく「市民参加型の環境とまちづくりを考える」シンポジュームを市とわれわれで共同開催しようともちかけた。これも勝手にやれと拒否された。

それでも2002年６月３日に、市主催の「環境フェア」で、市の一担当者の熱意でふるさと茨木連帯と環境保全課の共催が実現した。さらに、10月28日には、同じ共催関係で、落語と講演の会を催した。落語家の露の団四

ふるさと茨木連帯「ふるさと茨木探検ガイド」
第１回編集会議の模様

郎を呼び、滋賀県立大学の土屋正治教授を呼んだ。

この間に、ふるさと茨木連帯と市の助役を交えた懇談会を行い、それが発展して不定期ながら市との「連絡会」もおこなわれるようになった。最初、企画部と、組織が変わって市民活動推進課と連絡会がおこなわれた。

2001年10月には、それまでの６回は茨木未来倶楽部が実施していた「茨木市民博覧会」をふるさと茨木連帯が引き継いだ。この７回目の市民博はふるさと茨木連帯で市の後援を獲得した。2002年の第８回もふるさと茨木連帯が推進している。

2002年は、ふるさと茨木連帯の共同企画として、「ふるさと茨木再発見ツアー」を行った。午前の徒歩コースは27名の参加だったが、午後の自転車コースは雨で中止となった。

そして、何よりも、この本・「ふるさと茨木探検ガイド」が、2002年の共同企画である。２月から毎月編集会議を開き、各グループからかってでた編集委員が取材し、見聞して、レポートをまとめ、１年がかりで原稿を書いた。同時に、予約出版という新しい試みで本が出来る前からインターネットやチラシで出版協力者を集めた。3000冊の予約が取れればタダで出版できるという本だった。何とか本が出た。素晴らしい。お金がなくてもとんでもないことができる、いい見本だ！みんな、「楽しかった」「いい出会いがあり、とても勉強できた」と手放しで喜んでいる。よかった、よかった！

茨木未来倶楽部

佐藤眞生

茨木未来倶楽部の代表佐藤眞生さん

茨木に家を持ちここに骨を埋めるつもりの人たちが中年を迎えた頃、茨木というのはどういうまちなのかをふと考えたのでしょうね。生まれ故郷とはまた違う死に場所として茨木のことを思ったのではないかと思います。そうしたら、このまちは何かよくわからない、つかみどころがないと、まあそんな風に感じたのだと思います。

まちづくりなんてことがはやっていたこともあって、青年会議所が思いついた「まちづくり人間募集」に応募した暇人がいたんですね。応募はしたけれども１年ほど間があいてから「集まれ」てなことがあって、そこで出会った何人かが何かしようかということでまとまりました。1992年10月でした。

まちは住んでいる人が「生き生きワクワク」していないと意味がないということで、そんな活動が始まりました。ワイワイガヤガヤやっている内に、こんなまちがいいという項目がたくさん出てきて、それを格好つけて「茨木百年都市構想」なんて名づけていきがっていました。

30ほどの項目はそれぞれ言い出しっぺがいます。言った奴がやればいいということになって、言ったことをやる奴を「パイロット」にしました。いろんなことが動きはじめました。

＊「市民農園」をしたいというパイロットがいて、３年ほどかけて2002年現在、７反を耕す14家族のグループができました。

＊Ｊリーグの「ガンバ大阪」の応援団もできました。最初は万博で試合があると、茨木はゴミ捨て場になって困ったのですが、このグループは駅でキャンペーンを考えました。「ボール蹴ってもゴミ蹴るな」というわけで、試合に行くファンにゴミ袋を渡し、帰りにゴミ袋のシュートを受けるのです。

＊伝統的な芸能を伝承したいというパイロットもいました。「津軽三味線のコンサート」を、造り酒屋の酒蔵で始めました。2002年、第８回目を迎えました。

＊茨木にジャンルの異なる芸術家を糾合して「芸術の森」を作ろうというパイロットもいます。今奮闘努力の最中です。

＊市民グループに呼びかけて、年に一度それぞれの活動を発表しないかということで「茨木市民博覧会」が始まり、2002年に８回目を数えています。

＊これがきっかけで、市民グループの連合体ができました。今、21グループが緩やかな協力関係にあり、「ふるさと茨木探検ガイド」なる本はみんなで企画して2002年初めから１年がかりで作りました。これが「ふるさと茨木連帯」です。

＊里山の保全を志すボランティアグループもあります。「山彦クラブ」と称して竜王山を中心に活動しています。

＊礼儀正しいスポーツマインドを広げようと、「ダーツ協会」を立ち上げたパイロットもいます。1999年に、茨木でダーツの大会をはじめています。

いつでも、誰でも、自由に入ることができる組織です。

年会費が１日10円で3,650円です。

事務局:【TEL】072－636－0393

【FAX】072－636－0394　佐藤眞生

茨木／ケナフの会

若尾隆一

◆【ケナフ】って何でしょう？

ケナフという言葉を聞いたことがありますか。フヨウやハイビスカスの仲間の１年草で、種をまいてからわずか５か月で４メートルにもなります。

秋にはクリーム色の美しい花が咲きます。

ふるさとはアフリカで数千年の昔から、繊維作物として栽培されてきた古い植物です。ケナフはペルシャ語で麻を意味します。

◆【ケナフ】が注目されている訳は？

☆人間の活動によって出される炭酸ガスが吸収しきれなくなり、いま地球の温暖化が進んでいます。吸収した炭酸ガスをうまく処理する必要があ

ケナフの花が満開（泉原の郷で）

落ち葉を入れてケナフの栞づくり

りますが、ケナフは生長が早いためにより多くの炭酸ガスを吸収してくれます。

☆現在10秒ごとに東京ドームと同じ面積の森が地球上からなくなっています。木材は主に紙と建築用に使われますが、ケナフは優れた紙の原料として利用できるために、大切な森林資源を護ることに役立ちます。

☆このほかにも水をきれいにしたり土を改良する効果が認められるなど、いろいろな可能性のある、古くて新しい魅力のある植物です。

◆【ケナフ】を使った楽しみ方は？

☆茎：皮を剥いでパルプを作り、紙すきをして葉書や栞を作って楽しめます。残った芯はクラフトに使ったり、炭焼きの原料になります。

☆葉：葉にはカルシウムが牛乳の約４倍、鉄分はほうれん草並の栄養があります。

若葉はそのまま天ぷらに、葉を煎じてケナフティーに、若葉を粉にしてケナフクッキー・パン・うどんなどに。

☆花：葉と合わせて布をケナフ染めにしたり、ゼリーやジュースにしてクッキングを楽しめます。

◆【ケナフ】は学校の教材に最適！

双葉で芽を出し、５枚目から葉が分かれ、３か月目には葉が７つに分かれるので、栽培しながら楽しい観察ができます。皆で紙すきをして卒業証書を作った小学校もあります。

◆【茨木ケナフの会】に貴方も参加しませんか！

楽しい仲間

2000年６月の茨木環境週間を以て発足しました。一人の地球人として何か役立ちたいとの素朴な願いからケナフと出会った者、紙すきやクッキングなど道具立ての多いケナフの魅力に取りつかれた者の集まりです。興味のある方はお問い合わせください。

問い合わせ先：若尾隆一（わかおたかいち）
茨木市北春日丘２－18－７（〒567－0048）
TEL & FAX：072－626－1713

出来上がったケナフの栞

茨木まちづくりネットワーク

京谷信弥

■設　立　　1998年６月
■会　員　　90名
■活　動　　まちづくり部会＆環境部会
■連絡先　　〒567-0891
茨木市水尾１－７－６
TEL／FAX　072-634-6803
京谷信弥
E-mail　ZVK11021@nifty.ne.jp

活動内容

■シンポジューム
こうしたい！　私のまち茨木
／講演「衛星都市の歴史から茨木を見つめる」
桃山学院大学教授　芝村篤樹
■いばらきウオッチング（継続して実施）
■市民が提案する　バス利用向上策　を策定
■「自転車の安全で正しい乗り方」
茨木市民マニュアルを策定

茨木／市民文化の会

福田敏子

茨木市民文化の会とは？

文化を愛する人の集まりで、地域の文化を高め心豊かな生活をつくっていきたいと15年前に会を作り、社会教育関係団体にも認定され、誰でも参加出来る会です。ノリノリの人、大歓迎でーす。

現在まで15年間の活動

例えば

①舞台鑑賞　「風が吹く時」青年座ほか13回

②映画「近くで良い映画を毎月１回上映（茨木シネマクラブ　６周年目）

③とっておきの話　その道の達人を招いて、聞いたり、創ったり／№18まで

④小さな展覧会　古着のリサイクルその他／№13まで

⑤月１回の機関紙の発行“麦便り”

⑥旅行（国内外、ハイキング、青春１８切符を使って

問い合わせ先：「茨木市民文化の会」
茨木市駅前二丁目５－20
TEL/FAX　072-624-5690
（水・金午前10:00～午後4:00）

代表の福田敏子さん

「茨木市民文化の会」
シネマクラブの８月例会

矢島恒子／九鬼昌子

ホタル

友達に誘われて、茨木シネマクラブ８月例会から会員になりました。

会場に入って驚きました。大勢の映画ファンが居られて・・・

平日の午後、地元のゆったりしたホールで、のんびり映画を格安で楽しめるなんて何と幸せなことでしょう。

今月は高倉健さん主演の“ホタル”でしたが、以前テレビで口ケ風景を見たことがあって見たいな～と思っていました。 何時何処で上映されるかもわからず、そのままになっていましたが、偶然見ることが出来嬉しく思いました。

来年３月の例会で上映が予定されている
「折り梅」の１シーン

場面は鹿児島県の知覧飛行場から、夢も希望もある若い立派な青年達が特攻隊として片道飛行に飛び立つ。

『必ず撃沈して帰ってきます』

『エッ～』『ホタルになって・・・』

本当に会いに帰ってきた様に舞う“ホタル”

もう、グッ～！

運命の出会いで結ばれた夫婦が寄り添いながら、戦友の形見を届けに朝鮮に出向く。先方の家族に罵倒されながらも、遂には年老いた母は、形見を受け取り感謝の言葉を言ってくれる。

国を越えた長年の思いがお互いに通じ合う瞬間である。

感動の大作でした。

シネマクラブの仲間

映画選びから当日の準備や後の整理等お世話をされるシネマクラブの方々のご苦労の上に成り立っている事を痛感しました。

有難うございました。そして末永く続けて下さいますようお願いします。

来月の“ウォーターボーイズ、ダイナミックな男の子のシンクロ！楽しみにしています。

今日の２時上演は、ラッキーな事がありました。

終演後その舞台で 茨木市民博覧会のうた芝居 『五十鈴姫』の歌の発表会があり、20曲ある中の６曲を披露してくれました。

市内の公募によるキャストでこれだけのハーモニーが作れるとは失礼ですが驚きです。

余りの素晴らしさに思わず拍手と一緒に 『ウオーッ！』と大きな声を上げてしまい、進行係の山本禎二さんに、『お声を頂き有難うございました』と言われてしまいました。

ここまで練習が進んでいるとは。10月の上演が楽しみです。

問い合わせ先:「茨木市民文化の会」

茨木市駅前二丁目５－20　TEL/FAX　072-624-5690

（水・金午前 10:00～午後 4:00）

「Ａｌｏａｌｏ」

茨木市をもっと知り学ぶ会

矢島恒子／九鬼昌子

10年以上も茨木市に住んでいながら、『茨木市はどんな所なんだろう』

茨木市に住むようになって４年目、『茨木市をもっと知りたい！』

そんな思いで、この会ができました。

ふるさと茨木連帯で「ふるさと茨木探検ガイド」を作るということを聞き、私たちの思いが通じたとばかりに編集メンバーに入れていただきました。

おかげで茨木市の情報をたくさんもらって、今、西へ行ったり北へ行ったり。歴史も、自然も、生活も、少しずつわかってきたかな？というところでしょうか。

ハイビスカスのことをハワイ語で、Ａｌｏａｌｏ。

フラダンスが大好きな４人がメンバーで、このグループ名が付きました。その名にピッタリの４人です（私たちも、「フラ」を踊る時は、この「ハイビスカス」を付けて踊ります）。

Ａｌｏａｌｏ　４人のメンバー

《バリアフリーコンサート企画》

クラシックコンサートに出かける機会の少ない知的障害を持つ人たちも、一緒に音楽に親しんでもらおうと、1999年プロのクラシック音楽家たちで活動を始めました。「障害者のためのコンサート」ではなく「障害がある人もない人も一緒に楽しめる普通のコンサート」を目指しています。茨木市のほか、高槻市、吹田市、兵庫県宝塚市、伊丹市などでコンサートを開催しています。もちろん、要望があれば出前演奏もいたします。点字プログラム、手話による曲の解説があり、会場と一緒に歌う「手話の歌」は毎回好評です。代表の石原光世は大阪音楽大学講師を務めており、2003年３月には同大学管弦楽団により初のオーケストラ公演が茨木市で行われます（2002年現在）。

連絡先　バリアフリーコンサート企画
TEL・FAX　072(622)9928
http://homepage3.nifty.com/b-free/

茨木市民文化フォーラム

”あいつどい　心ひびきあう街いばらき”　を合い言葉にして、日常の生活の場である「いばらき」に身近で豊かな文化を根付かせようと1994年６月に発足しました。グループの名前も、主催するイベントの名前も「茨木市民文化フォーラム」です。

以来「いばらき」在住の人々を中心にして様々な活動を行ってきました。

時代の先取りをしてきた活動内容をふり返って

第１回フォーラム（1994. ６. 10）

「いばらき」在住の音楽家によるフォーラムコンサート

音楽家の名簿作りが茨木市音楽芸術協会の発足につながりました。

（1994. ６. 12）講演とパネルディスカッション

〈講師　大阪市ドーンセンター館長（当時）　津村明子〉
市民と行政で香り高い文化の創造を話合いました。

第２回フォーラム

（1995. ２. 10）ミュージカル「サウンド　オブ　ミュージック 」
第１回フォーラムで指摘されたように、オーケストラボックスのある響きのよい音楽ホールがほしいという切実な声があがりました。
講演「源氏物語を読む楽しみ」
〈講師　園田学園女子大学教授　福嶋昭治〉 新しい世紀になって「源氏物語」ブームになりましたがその先がけでした。

第３回フォーラム

（1995. ７. 15）演劇「おいしい2001年のつくりかた」新しい世紀に夢を託すいばらき在住の若者達の演劇でした。

第４回フォーラム

（1996. ２. ７）「地球に根付く文化」を考える講演学習会
〈講師　東京都世田谷区企画部長（当時）　八頭司達郎 〉市民と行政で文化的な街づくりをする方法とは？

第５回フォーラム

（1997. ６. １４）市民オペラ「ヘンゼルとグレーテル」茨木市最初の市民オペラ上演でした。

第６回フォーラム

（1997. 11. 28）「キラキラぼしＳＰＥＣＩＡＬコンサート」オーケストラのような表現力のあるアンサンブルを楽しみました。

第７回フォーラム

（1997. ２. 11 ～ 15）

源氏物語五十四帖絵画展と講演会

<絵画　日本画家　小林　等 >

<講師　園田学園女子大学教授　福嶋昭治>　五十四帖全てが展示されたのはフォーラムが最初でした。その後「宇治市源氏物語ミュージアム」が設立され、現在抜粋して展示されています。

第８回フォーラム

（2000. ９. 29）銅鐸講演会と打楽器アンサンブル

<講師　上田合金社長　上田富雄>

<演奏　大阪芸術大学　打楽器アンサンブル>　弥生時代の匠の技に挑戦する現代の匠の心意気を知らされました。銅鐸の音色が次回フォーラムにバトンタッチ！

第９回フォーラム

（2000. 10. ５～６）うた芝居「五十鈴姫」考古学上、証の多い銅鐸といばらきの伝説が結びついてどんな創作うた芝居になるのでしょうか？歴史観がかわるかな？

「五十鈴姫」たたら踊り

夢づくり茨木パソコンクラブ

平野正善

パソコンは、夢を創る玉手箱。多くの人に、パソコンの面白さを知ってもらいたいと願っています。仲間と大勢でする方が、楽しく進歩も早いものです。初心者、経験者を問わず、どなたでも会員になれます（茨木市外の方でも可）。

茨木パソコンクラブのキャッチフレーズ
“当クラブに入れば、顔のしわが伸ばせます！髪の毛も増やせます！……写真の画像処理にて”

当クラブは、茨木市生涯学習課（旧、社会教育課）主催の「土曜サロン」に参加していたＯＢ10名にて、平成10年４月より発足しました。当初は、男性ばかりでしたが、女性会員も増え、毎回、20数名参加しています。特に、50～70歳代が多く、最高齢は82才の男女です。会合では、初めの１時間が、全員で勉強会（講師は、会員が交替）。あとの１時間では、個人学習や情報交換などを行っています。

場所：茨木市中央公民館（市役所南側、消防署の隣）
日時：定例会、月４回。毎週金曜か土曜の夜7:00～9:00
（ホームページに、会合日等を掲載）
内容：パソコンの使い道、Windowsの基礎、Wordの基礎＆応用、Excel、マルチメディア、ホームページ作成法、年賀状・カレンダー作成、etc.

入会または見学方法：直接、会場へ。または、下記連絡先へ。
会費：半年3,000円（入会金3,000円）

連絡先：平野正善（茨木パソコンクラブ会長）
TEL.（072）632-2792
E-mail: mhirano@mpd.biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www5a.biglobe.ne.jp/~ibaranet/pcclub

茨木三曲協会

日本古来の楽器である箏・三絃（三味線）・尺八による「三曲」。

「茨木三曲協会」は市内に在住または指導している邦楽専門家のグループで、会員数45名。

楽器・流派を超えた交流が特長で、春は「邦楽演奏会」、秋は「邦楽三曲名演会」をクリエイトセンターで開催しています。

また春は元茨木川の「さくらまつ り」で演奏し、茨木の春に彩りを添えていると好評です。

＜事務局＞〒567-0888　茨木市駅前４－１-17（石原霊山方）
TEL　072（622）9925

素晴らしい自分を発見する

『さくらハウス』

池田博保

近鉄バス、春日丘公園バス停から、歩いて３分。私人が住宅を提供した３階建ての落ち着いた雰囲気の建物。

現在、落語の会、料理教室、ハーモニカ教室、朗読など、100人以上の多くの方が参加している。

インターネットのメッセージ『百人の村』を翻訳し、日本中に発信した人として注目されているキャリアコーチの中野裕弓さんの講演を３月と９月に開催。ファンも多い。

2002年６月から「和らぎの会」が始まった。子供たちが、おじいさん、おばあさんと一緒に暮らさないようになって、日本の良い文化、生活習慣・風土などが伝承されにくくなった。それを掘り起こしてみんなで考えようというもの。

「古事記のものがたり」(執筆者宮崎みどり氏)、「縄文魂」(執筆者佐藤眞生氏)などの講演と関連した朗読、意見交換会を組み合わせて参加者が主役で盛り上がっている。

日本は、平和で豊かな生活を送っている。しかしさらによりよく生きたいと願っている。さくらハウスはそのための出逢いを提供する場。

さくらハウスにつどう人々はこう語る。「町に出かけて、人に出遭うと、何かを発見することがある。さくらハウスで、人と出遭い交流すると、自分の中にあったいいものに気付き、それが正しい回転を始めて、さらに豊かな人生を送れるようになる」。

＜連絡先＞角山八重子　茨木市南春日丘6-2-19
TEL/FAX　072-627-2552

図書館友の会　『萠』

池田博保

茨木市の図書館は、蔵書数、利用状況など、日本ではトップクラスで、市民の誇りである。

市立中央図書館が開設されて間もなく、図書館友の会『萠』が生まれた。友の会『萠』は、市民の視点で使い易い図書館を目指す諸活動を、50人の会員が展開している。図書館と協働して、市民のための良い図書館にしていくのが目標である。毎月第一土曜日の10時～12時を例会として、書架の本が、分類番号順どおり並んでいるか調べて、乱れていたら直す。萠（市民主催）の講演会を開催する。機関誌を発行する。図書館で開催される催しに会場スタッフとして参加するなど。文庫連絡会など他の図書館ボランティアグループと協力しあって、活動している。

2001年～2002年の主な活動は次の通りである。

- 書架整理（毎月）
- ふれあい講座（2001年９月「寝たきり人生を送らないために」）
- アフガン写真展「この子たちのアフガン」（2002年５月）
- 機関誌『萠通信』の発行
- 図書館行事への協力
  （リサイクルブックフェアー、ライブラリーフェスティバル）

友の会『萠』が目指していること（機関誌11号・福山代表）

友の会『萠』は、結成八年になります。

アメリカのオーランド図書館を訪ねたとき、「１日、2500人のパトロンが来ます」と、案内をしてくれた副館長が言われました。市民でもない、利用者でもない、パトロン（支える人）なのです。

市民あっての図書館そのものです。

「支える」ということは、「図書館としっかりつきあうこと。図書館は使う人によってしかよくならないし、使うことでしか変わらないものだ」と、菅原峻氏（図書館施設研究所所長）は言われています。

自分たちの図書館として使いこなす。使うだけでなしに図書館そのものに目をすえること、市民としての分をわきまえながら図書館と協働して図書館をつくりあげていくことが『萠（もえ）』の大きな目標です。

いいパトロンになるということは、そういうことではないでしょうか。市民みんなが図書館を使いこなすための橋わたしをするのが友の会の役目だと思っています。

８年間、月一回ですが、書庫整理をしたり、一般書のフロアーの書架の本が分類番号どおりきちんと並んでいるか、その乱れを直してきました。それらの作業をする中で気がついたことを提案してきました。そして専門職としての司書の仕事について理解を深めてきました。

私たちは、自立したボランティアです。行政が集めたボランティアとは一味違うと自負しています。

図書館が大好きな方、『萠（もえ）』の仲間になって
いっしょに活動してみませんか。

＜連絡先＞福山恭子　茨木市東太田 3-5-24　TEL072-626-3883
藤原友子　茨木市上穂積 1-1-7-1307　TEL072-625-9512

やまもも音楽実践舎

“楽しくホットな音楽会を企画なさいませんか”
＜ほほえみと感動のひとときを過ごして頂けます＞

＊茨木を本拠地とするプロ演奏グループで、近畿を中心に全国規模の活動を、楽しく有意義に展開しています。

＊特色は、親しみのあるクラシック音楽の小品を主体に、優しく温かく、さわやかな印象に残る演奏で、見えない本物（形に残らない物）の価値を具現しています（なつメロやスタンダード歌謡もできます）。

＊メンバーには「茨木市音楽芸術協会」所属の技能優秀者を多く登用しています。

主宰の山本禎二さん

＊出演は、１名（ピアノ、アコーディオン他）から13名編成まで出来ます。

＊楽器編成は、歌手男女、ピアノ、マリンバ、ヴァイオリン、フルート、ドラムセットほか打楽器を基本にしています。

＊プログラムは、敬老会、式典、祝宴、周年記念、ファミリー企画、学校生徒／児童、幼児、ＰＴＡ、こども会、等にふさわしい曲目を、提

写真はドイツ・ロイトリンゲン市役所で

案と相談をさせて頂きます。

＊主宰の山本禎二は、ＮＨＫ大阪専属タレント／関西歌劇団バス主演歌手／楽団アンサンブルレネットの歌手司会を長年兼職経験してきました。

＊［連絡先］
〒567 － 0044　茨木市穂積台２－13
山本禎二「やまもも音楽実践舎」
TEL090 － 3966 － 6456
FAX［072］625 － 5972　自宅 TEL［072］626 － 1376

ガンバ大阪茨木後援会

佐藤眞生

Ｊリーグの開幕が93年５月、その１年後から準備が進められてガンバ大阪茨木後援会は94年10月に設立された。この後援会は単なるファンクラブではない。それは設立後の活動をみればすぐわかる。

俗に言う「ファンの集い」は毎年行われ、常に500人を越える人々が集う。これはファンサービスとしてどこでもやっていることでさほど代わり映えはしない。しかし、ここから先がチョット違う。

ガンバ大阪のホームグランドは吹田市の万博競技場。ところが交通アクセスは茨木。そのため、試合当日の茨木市は駐車違反とゴミであふれる。そこで考えたのが「ビクトリー・ダスト・シュート」キャンペーン。“ボール蹴ってもゴミ蹴るな”をキャッチコピーに、バスターミナルで競技場へ向うファンにゴミ袋を手渡し、試合終了後そのゴミ袋を回収するというもの。ジャスコがゴミ袋で協賛、ファンも楽しみながらダスト・シュートに参加してくれた。この発案と推進は後援会事務局長の松永豊さんだった。

97年にはもっと素晴らしいことがまたまた松永豊さんのアイデアで実現している。それはＪリーグ公式戦の当日に万博競技場で、地元少年チーム同士の前座試合を行ったことである。こんなことはどのプロスポーツの世界でもなかったことである。例えば、甲子園球場で巨人対阪神戦が行われる前に、地元の少年野球チームが前座試合を行うとしたらどんなに画期的

であろうか。それほど素晴らしいことをこの後援会はあっけらかんとしてしまう。そしてこの前座試合は今や万博競技場では恒例となっている。

青少年の健全育成を標榜する後援会では、小学生を対象にした「コミュニケーションスクール」や、社会福祉法人の慶徳会・救世軍希望館などの子供たちを対象にした「サッカークリニック」なども進めている。子供たちはこの企画に参加した後、たくさんの感謝の手紙を送ってくれる。松永さんは、「スポーツは子供たちに素直に感じる力を与えてくれる」と喜んでいる。そして、ガンバ大阪茨木後援会は、サッカーを通じて、「素直に感じ、正直に行動する」未来世代の育成に心を馳せている。

ガンバ大阪茨木後援会事務局はマツナガ電器内におかれている。
電話：072-625-1313。

大正琴「花林会」

大正琴「花林会」で、楽しい仲間づくりをしませんか。
誰でも、簡単に弾くことが出来ます。

1、大正琴とは

大正元年(1911)に名古屋で開発された、日本独自の楽器です。1～５本の金属弦が張ってあり、左手で音階ボタンを押し、右手でピックを持って弾く弦楽器です。

童謡、唱歌、民謡、演歌、ポピュラー、クラシックなど、あらゆるジャンルの曲を演奏することができます。

故郷のように懐かしくて、暖かい音色のする大正琴は、練習すれば誰でも簡単に引くことが出来、ますます普及していく楽器です。

２、大正琴「花林会」

茨木市を中心に活動してる大正琴のグループです。大正琴の演奏技術を学びながら、楽しく会員の親睦を図っています。

教室は、ＪＲ茨木駅前、山手台、郡、中河原、中津、水尾、ローズワム、京都一乗寺などで開いています。老若男女に関係なく「聞く楽しみから、弾く楽しみへ」をモットーに、仲間づくりをしています。

３、活動内容

①毎年、京都会館で行われる「琴伝流大正琴京都大会」に出演したり、地域の文化祭や敬老会等に参加しています。また、２年に１度、茨木市民博の中で、花林会としての発表会をクリエイトセンターで開催しています。

②老人センター等への慰問にも力を入れています。訪問先では、大正琴の演奏に合わせて一緒に歌っていただき、大変喜んでいただいていま

す。このような慰問活動は、私たちの生きがいとして、続けていきたいと思っています。

③平成10年７月には、「モナコ日本文化フェスティバル」出演のため、絵葉書から抜け出したような、おとぎの国、モナコ公国に行って演奏し、親善を深めました。

平成12年８月には、中国万里の長城の野外ステージ新設の柿落(こけら)としで演奏し、中国のテレビ局、ラジオ、新聞社のインタビューを受け、大正琴の魅力をアピールしました。

平成14年11月には、東洋の真珠と呼ばれるウズベキスタン共和国を訪問しました。国交10周年を記念した「ウズベキスタン日本フェスティバル」に参加し、演奏の後は、家庭訪問も行い民間親善大使として国際交流に務めました。

④平成14年２月には、大津の琵琶湖ホールで社団法人、大正琴協会のコンサートに参加しました。また、平成15年３月には、大阪城ホールで琴伝流大正琴全国大会が予定されており、みんなで練習に励んでいます。

４、入会などの連絡先は

〒567-0009　茨木市山手台５丁目25-7

琴伝流大正琴「花林会」　代表　川島美陽子まで。

電話、ファックス、072-649-1470

於　北京

手作り絵本グループ「たんぽぽ」

タンポポの種が茨木にフワリとやってきてはや５年。

転勤族の絵本作り大好き主婦が日本中をフワフッとめぐりつつ、絵本作りの楽しさ、すばらしさを広げているのです。

たんぽぽが、わた毛で広い世界へ出ていくようにして。

私たちのグループは年齢もいろいろ、個性もさまざま。心の中にあるものを「形」にして、自分だけの本棚にこっそり並べ、伝えたい誰かに見てもらう。

そんな幸せを共感しているロマンチックな（？）なにわのお母さん集団です。

現在は、年に一度の展示会と月に２度集まり、活動しています。

第２木曜日　午後１時～３時　東公民館
第４木曜日　午前10時～12時　中央図書館
連絡先　072-627-2282　綾

■いばらきＹＭＣＡ
■大阪茨木ワイズメンズクラブ

いばらきＹＭＣＡ

◆ＹＭＣＡと言えば予備校の代名詞のように思われていた時期がありましたがそうではありません。ＹＭＣＡは1844年、当時進行していた産業革命でロンドンに集まった青少年が、健全に成長するのを目的として創立されました。現在のＹＭＣＡ国際協会はそれが世界中に広がったものです。

◆日本では国内主要都市・大学に国際協会に加盟するＹＭＣＡが出来ております。大阪ＹＭＣＡは1882年に創立され、以来120年にわたって国際協力・地域奉仕・社会教育・学校教育の面で、幅広い活動を続けてまいりました。いばらきＹＭＣＡは高槻ＹＭＣＡと共に、大阪ＹＭＣＡのブラン

チとして設立され、約20年の歴史を重ねてまいりました。初めは茨木駅近くの春日に拠点を置きましたが、2002年４月より現在の市役所に近い東中条に移りました。

◆特に力を入れているのは青少年活動で、その一環として少年サッカー、バレエ教室を主とし、他にワイズメンズクラブと協力して地域活動を行っております。少年サッカーは中央公園・若園公園・春日丘運動公園・白川東公園を拠点として、専門トレーニングを受けたリーダーの指導で練習をしています。バレエ教室はＹＭＣＡのスタジオで週３回マンツーマンに近い指導をしています。その他スタジオを貸室の形で、合気道教室、キリスト教岩の上教会の日曜礼拝に提供しております。

地域活動、青少年活動に意欲をお持ちの方は、ぜひ一度いばらきＹＭＣＡにお立ち寄りくださり、ご指導・ご提案をいただければ幸いです。

大阪茨木ワイズメンズクラブ

◆ワイズとは賢いという意味のWISEではなく、ＹＭＣＡのＹ′Ｓです。ワイズメンは活発な奉仕活動を行うことを通じてＹＭＣＡに貢献し、ＹＭＣＡ活動の後援を目的とするランチョンクラブてす。そこからワイズの名が生まれました。

ビジネスが高く評価されているアメリカ社会では実業人やホワイトカラーが中心となって、決まった日時・場所で会合を持ち、教育や行政・司法・外交・宗教・学問・芸術などの権威者を招いて食後のスピーチに耳を傾け、相互に交わりを深め、情報を交換することがビジネスに大いに役立つことに注目されました。こうして生まれたのがランチョンクラブで、ロータリークラブやライオンズクラブがよく知られていますが、ワイズメンも同様なランチョンクラブです。

◆茨木クラブはいばらきＹＭＣＡに奉仕すると共に、地域としての茨木市に直接奉仕するよう努力しております。現在までに公園用ベンチを寄贈

した他、毎年社協を通じて介護用車椅子、老人体験シミュレーター、ブラインドアーチェリー用弓具などを献品してきました。その他、毎秋市内の施設に十勝馬鈴薯を贈り続けております。また他のボランティア団体と共にＹＭＣＡと協力して、４月のボランティア祭り、７月の茨木フェスティバルにも参加しております。

◆ランチョンクラブ活動では、毎月第２火曜日19:00から、クリエイトセンターにおいて例会を実施しております。会員以外の方の出席も歓迎しますので、ぜひ遊びにおいでください。

いばらきＹＭＣＡと大阪茨木ワイズメンズクラブの連絡先は、以下の通りです。

茨木市東中条１-14赤松ビル３階
Tel:072-622-8568　Fax:072-622-8573
E-mail：ibaraki@osakaymca.or.jp

茨木読書サロン

題材提供と語らいの場です。あなたも参加しませんか！

若尾隆一

◆部屋に入るとそこはフリートークの真っ最中！持論を語る会員にうなずく者あれば、別の角度から切り込む者、時に渦巻く爆笑。初めての人はこれが読書会の姿かと思われるでしょう。

これは題材による発題が終わり、メンバー間の語らいが中心となった、会も後半の風景なのです。

◆月１回第４水曜日の夕約２時間、輪番で回ってきた会員が用意したレジメに従って発題し、後半最初は関連したフリートーク、終わりころは世間話が相場の、和気あいあいの雰囲気でやっています。会場は中央図書館と中央公民館を隔月交替に使わせていただいております。

◆題材は評論・小説・随筆から、歴史書・科学書・新聞雑誌記事と多彩。

発題者が自由に選ぶ題材には最新の世相を反映した評論ものがあれば、かたや先達の姿・心を偲ぶ歴史書ありとバラエティーに富んでいます。

◆本会は生涯学習の一環として、船津健二氏らを中心に発足してから毎月欠かさず開催し、満４年を迎える平成14年10月で累計47回目となりました。２年程前から12月には忘年会を兼ね、会食しながらの放談の場としています。

◆読書離れがうわさされる昨今ですが、書店や図書館はどこも人盛りしています。やはり私どもは本来本好きな国民なのかも知れません。

本好きな人はもちろん、語り合うのを好む方も一度のぞいてみてください。お待ちしています！

名称:【茨木読書サロン】
日時：毎月第４水曜日18時（または18時半）～２時間程
場所:中央図書館または中央公民館（原則隔月交替）
会費：無料
問合先・事務局：長尾
Tel:070-5508-6224
E-mail：nagao@azwave.ne.jp

最近の題材事例
【声に出して読みたい日本語】【生命の暗号】【日本語と日本人】【五代友厚秘史】【小泉改革を邪魔するのはオヤメなさい】【江戸商人の知恵袋・石田梅岩】【教育崩壊】

読むことは人を豊かにし、話し合うことは人を機敏にし、
書くことは人を確かにする。
・・・・・・・・・・ フランシス・ベーコン・・・・・・・・

ふるさと茨木連帯グループ名簿

No	グループの名称	代表者	会員区分	電話番号	活動目的・活動内容
1	茨木未来倶楽部	佐藤眞生	正会員	636-0393	百年都市構想の実現活動
2	山彦クラブ	吉田壽幸	正会員	633-2859	里山ボランティア・林業支援
3	大正琴花林会	川島美陽子	正会員	649-1470	大正琴教室および演奏活動
4	茨木パソコンクラブ	平野正善	正会員	632-2792	パソコン作品の情報交換
5	茨木市民文化の会	福田敏子	正会員	624-5690	映画などの多様な文化活動
6	茨木まちづくりネットワーク	京谷信弥	正会員	634-6803	まちづくりと環境の部会活動
7	アロアロ（茨木探検）	九鬼昌子	正会員	632-2976	茨木をもっと知り学ぶ会
8	茨木ケナフの会	若尾隆一	正会員	626-1713	ケナフの栽培と活用の促進
9	MOA文化財団	赤松民男	正会員	641-1426	文化と自然農法の普及活動
10	バリアフリーコンサート	石原光世	正会員	622-9928	バリアフリーのコンサート活動
11	茨木市民文化フォーラム	福嶋昭治	正会員	624-5690	音楽を中心とした文化活動
12	健康道場燿康友和協会	木村佳永	正会員	0727-27-3637	レインボー医学と漢方療法
13	座禅の参玄会	芹生秀策	準会員	635-5148	座禅で自分を鍛える活動
14	茨木水と緑と人の調和を考える会	小林研二	準会員	635-2406	自然を維持する各種活動
15	元茨木川のめだか	若山雄児	準会員	634-4967	茨木川について教え合う会
16	子どもと大人のための読み語りの会	森みどり	準会員	637-1010	親子の読み語りの集い
17	社会福祉法人慶徳会	調　龍信	準会員	622-5030	子どもたちの養護・支援施設
18	茨木自然保護研究会	萩原　寛	準会員	622-4980	タンポポ調査など自然観察
19	虹の会	坂東淳子	準会員	626-4992	廃棄物ゼロ運動と資源化
20	やまもも音楽実践舎	山本禎二	準会員	625-5972	音楽会の企画
21	ユース100実行委員会	塚本祥司	準会員	636-1535	小学生の100m競技会
20	茨木三曲協会		会員外		
22	さくらハウス		会員外		
23	図書館友の会萌		会員外		
24	ガンバ大阪茨木後援会		会員外		
25	茨木ワイズメンズクラブ		会員外		
26	茨木読書サロン		会員外		
27	グループたんぽぽ		会員外		

「オーダーメイド出版」と「町づくり」!?

当社は、大阪で50年以上、政府刊行物や官報の普及に動いてきた。でも、もっと地域に根ざした活動ができないか。「かんぽう」にしかできない、そんな商品が持てないだろうか。そう思った時、たくさんの労作、たくさんの良質な情報が、「商業ベース」に乗らないという理由だけで、活字になることもなく消え去っていることを知った。

体裁は立派なものでなくていい。消えていく良質な情報を、なんとか形にして、みんなの目に触れるようにするにはどうしたらよいのだろう。

この発想から「オーダーメイド出版」が生まれた。

ＷＥＢ上である期間、紹介する。「こんな方が、あるいは、こんな先生が、こんな本をつくろうとしています。500冊の予約があれば、本として生み出すことができます。どうか出版協力者になってください。」

最初は、うまくいくのだろうか、そんな懸念を抱えながらの出発だったが、すでに２年が経ち、20冊以上の本が生み出された。

今では、似たような本の作り方が、デジタルの世界でも、紙の世界でも次第に普及しつつある。

そんなあるとき、「ふるさと茨木連帯」の佐藤眞生さんが、この本の企画を持ち込んでこられた。「出版活動を通して、いや出版活動そのものが、そのまま『村おこし』や『町づくり』にならないものか」と。

佐藤さんは、オーダーメイド出版で「縄文魂」を出版された。それ以来の付き合いだ。おもしろい人物である。「縄文魂」を出した時、図書館協会から問い合わせが入った。「著者の佐藤眞生さんですが、『セールス面白話材事典』や『ファッション商品の販売戦略』と同じ著者の方ですか？」

聞けば、あまりタイプの違う本なので、同姓同名の違う著者かと思ったのだという。もちろん、同じ著者である。

その佐藤さんが、今、茨木に居を構え、「ふるさと茨木連帯」でつながった市民グループの方々と、町おこし、ひいては自分達の住む町を掘りおこしてみようと、本づくりを計画している。

かくして平成14年２月、茨木の男女共生会館「ローズワーム」に茨木市の市民グループが集まった。参加グループは21グループに及んだ。

「本屋で売っているガイドや、市町村がつくる案内とはひと味もふた味も違ったものをつくろう！」

志や良し。しかし、最初はなかなか形が見えてこない。何をどれだけ書けばいいのか？　参加した編集委員の方々は、佐藤編集長のリードで、暗中模索ながらも、あちらへ走り、こちらへ走りと取材活動を展開された。

私は、編集会議の第１回から参加させていただいたが、はじめての試みにワクワク。一人の著者が書斎にこもって、苦しみながら本を書き上げるのでなく、みんながワイワイガヤガヤいいながら本をつくる。

「こいつは新しいゾ、出版がレジャーになるかもしれない」などと勝手なことを考え、「あまりレールを敷くのはやめて、自分も楽しもう」と観察者を決め込んだ。ところが、月に一度の編集会議に参加する内に、佐藤編集長や周りの方々の熱に浮かされ、ついには一緒に茨木の山間部を歩き、茨木の町を歩き、自分自身、茨木の人間でもないのに原稿まで書き出す始末。

気が付けば、「一体どうなるんだろう」と心配していた『ふるさと茨木探検ガイド』は、次第に卵の殻を破り、実に堂々とした姿を現し始めていた。

これはひょっとして「鳶が鷹を生んだ」のでは・・・おっと失礼！

＊＊＊

「私たちは、今、手作りで、自分達の町、自分達の終の棲家を探検し、自分達の町を本にしようとしています。予約が集まれば、一円の予算がなくとも本がつくられるんです。」

取材することが、読者の予約を集めることが、それがそのまま、町づくり、村おこしのＰＲとなっていく。こんな本づくり、あなたの町でも企画してみてはいかがでしょうか。

かんぼう　桐生敏明